T-ACT

つくばアクションプロジェクト

筑波大学
University of Tsukuba

活動報告書

2010. March

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

目　次 *－T-ACT 活動報告書－*

はしがき

自転車の無灯火運転防止キャンペーン（08001P）…… 1

世界的なプロのオーケストラと指揮者の…… 3
リハーサルを見学し勉強する（08003P）

学生による高校生向け大学 PR 活動 in TOKYO（08007A）…… 6

つくろう☆子供遊園地“GOOD JOB” …… 8
～夢のお仕事体験場～（08009A）

あなたの小説が読みたい！…… 12
―筑波学生文芸賞の作品および一般選考員の募集―（08010A）

アカデミックかふぇ（08011A）…… 14

筑波大学の食を変える！！…… 17
～健康増進×国際協力の可能性を探る～（08012A）

留学生と本学生がつくる国際情報誌（08013A）…… 19

つくろう☆リアル RPG ～夢の宝島～（09001A） …… 21

オリガミナイト（IBO 折り紙交流会）（09002A）…… 24

つくば市（筑波大学）にワンセグを入れよう！…… 28
～受信受難地域からの解放へ向けて～（09003A）

女性でもフットサルしようよ！（09004A）…… 32

キャンパスツアー（大学案内）でのキャンパスアテンダント体験（09005A）…… 34

小学校の先生体験プログラム…… 39
－蚕飼小サポーター－（09008A）

Tsukuba Campus Positioning System の運用 …… 41
－ Web で筑波大学を解りやすくしよう－（09009A）

筑波大学都道府県人会ポータル作り（09010A）…… 44

第一回・天の川クリーンプロジェクト（09011A）…… 47

筑波大学生の就活に対する不安を吹き飛ばそう“内定者懇談会”（09012A）…… 51

留学生と日本人学生の情報誌づくり、第二弾（09013A）…… 54

みんなで YOSAKOI ソーランを楽しもう～♪ vol.1（09014A） …… 56

「わかる・伝わる」コミュニケーション …… 59
～岸英光コーチによる実践トレーニング～（09020A）

新春！大・餅つき大会を開催しよう！（09022A）…… 62

聞きたい！聞きたい！スポーツマネジメントの裏話！浦和レッズの裏話！（09023A）…… 65

編集後記

はしがき

「つくばアクションプロジェクト」（T-ACT）の活動報告書をお届けします。本プロジェクトは、平成 20 年度に「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援 GP）」に採択された筑波大学の取組みです。学生の自主性と社会性の育成を図るために、学生の主体的で多様な活動を大規模に創出させることを目標としています。この取組みがとりわけ新機軸としているのは、プロジェクトを推進する立場の大学がイベント等の企画・運営を行うのではなく、学生みずからが新たな活動（アクション）を企画し、仲間を募り、そして実施していくという点です。大学として、データベースの整備や電子掲示板の設置などハード面での支援と、専任のコンサルタントによる相談等の支援を用意してはいますが、「活動の創出」という本プロジェクトのコアの部分は、もっぱら学生の自発性、イニシアティブに任せられています。そのため、採択当初はわれわれの期待に沿って学生が本当に活動を自主的に企画してくれるのだろうかと不安な思いもありましたが、お陰さまで多種多様な活動が学生により企画され、実施に移されてきています。その数も時間の経過とともに徐々に増える傾向にあります。平成 22 年 2 月時点で、56 件の企画が承認され、正式な活動として実施されました。本報告書には、現在実施中のものなどを除き、23 件の企画と活動報告が掲載されています（なお、最初の 2 企画（番号末尾に P とあるもの）は教職員による企画です）。

本報告書を見ていただければ分かるように、T-ACT として文字通り多種多様な活動が企画・実施されています。アカデミックな企画、文化・食事にかかわる企画、国際交流を意識した企画、就職に役立てようとする企画、ボランティア色の強い企画等など、たいへん多彩ですが、すべてに共通しているのは、人と人との繋がりを積極的に作っていきたいという姿勢であると思います。われわれの期待も正にこの点にありました。「今後の課題」や「T-ACT に関する感想」には、様々な反省や苦言も寄せられています。活動が一旦始まってしまえば、仲間と協力しながら活動を生き生きと進めていく様子が伺えますが、多くの企画において最初に人を集める段階ではかなりの苦労があったようです。それに関連して、電子掲示板が必ずしも広報の有効なツールになり得ていないのではないかという不満の声、そもそも「つくばアクションプロジェクト」自体が学内でもまだ十分に認知されていないという厳しい指摘などもありました。本プロジェクトが始まって 1 年半ほど経ちます。T-ACT リーフレットの作成と配布、『スチューデンツ』の連載記事、また、筑波大学新聞への記事掲載など、広報活動にも力は入れておりますが、まだまだ十分であるとは言えません。本プロジェクトの学生支援 GP 終了後の継続も視野に入れ、課題を克服しつつ、さらに活動の輪を広げていくために、努力していきたいと考えております。皆様のさらなるご支援とご助力をお願い申し上げます。

平成 22 年 2 月

つくばアクションプロジェクト運営委員会

副委員長　**加賀　信広**

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	自転車の無灯火運転防止キャンペーン（08001P）

T-ACT プランナー	土子　昇（学生部学生生活課）

活動内容

学内及び周辺交差点等において、自転車の無灯火防止を呼びかける活動を行い、交通事故を減らすとともに、安全運転への意識の高揚を図る。

無灯火防止を呼びかけるポスターを作製し、学内に掲示する。

また、キャンペーン日時を定め、学内及び大学周辺交差点等でビラを配布するとともに、呼びかけ運動を展開し、交通安全活動を行う。

なお、活動に参加してもらうために、参加者募集のポスターを事前に掲示する。

実施までの経緯

10 月20 日（月）　プランナーにより計画書が T-ACT に提出された。
21 日（火）　T-ACT 承認
〃　オーガナイザー（事前に協力を要請済み）と実施計画の再確認
〃　パーティシパント募集のポスターを作成、学内に掲示
22 日（水）　つくば中央警察署及びつくば市生活安全課に参加協力依頼
27 日（月）
30 日（木）　※雨天のため集合後に実施を中止した。
31 日（金）　活動実施
11 月12 日（水）　プチ活動反省会（プランナー及びオーガナイザー）

活動期間	平成 20 年 10 月 27 日（月）、30 日（木）及び 31 日（金）
活動計画	
備考欄	
T-ACTオーガナイザー	オーガナイザー：全代会（生活環境委員会）、比較文化学類クラ代会 協力：つくば中央警察署交通課、つくば市生活安全課

活動報告

活動成果

自転車に乗っている学生等に対し、ビラを配布するなどして無灯火防止を呼びかけた。

同時に、自転車に取り付けられる反射板を無料配布し、事故に遭わないための具体的な対策の一部が実現できた。なによりも、T-ACT として活動したことにより、多くの学生及び教職員がパーティシパントとして参加してくれたこと、及び参加者自身がこの活動の中で、無灯火の自転車の多いことや無謀な運転を直接目にすることで、交通安全活動の重要性を認識できたことが大きな成果であったと思われる。また､つくば市役所の職員及びつくば中央警察署の警察官にも協力を求めたことにより、活動がより大きなものとなったと思われる。

今後の課題

3 日間実施する予定ではあったが、初日の実施直前に強い雨となったため、急きょ中止としたが、中止の連絡方法を考えていなかったために、中止にも関わらず全員が集合してしまうということがあった。今後は、緊急の際の連絡方法を確立したい。

経験者からのメッセージ

T-ACT の第 1 号企画として実施したため不安はありましたが、実施日に多くの学生・教職員が集まってくれた際には大変感動しました。また、この活動がきっかけとなり､「自分も同じようなことを企画してみたい。」と言ってくれた学生がいたことも大変うれしかったです。(大きな満足感を味わえますよ !)

実施に向けての準備（オーガナイザーや関係者との打合せ）により、多くのアイデアも出されたことで、自分の企画がより良くなったことから、多くの人の意見を聞くことは重要だと思いますし、また、その打合せが大変楽しい雰囲気でできたのも良かった点だと思います。企画や準備を楽しむことが、T-ACT の大きな目的だと思います。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

本企画のパーティシパントは当日参加型なので、大きな変化は分からないが、交通安全を呼びかけられる側から、パーティシパントとして呼びかける側へ移行すること自体に、大きな意味があると思われる。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	世界的なプロのオーケストラと指揮者のリハーサルを見学し勉強する（08003P）

T-ACT プランナー	三輪　佳宏（人間総合科学研究科）

活動内容

活動目的

普段は決して見ることのできない一流のオーケストラの練習風景を見学するとともに、玉川音楽大学准教授の野本由紀夫氏の楽曲分析（アナリーゼ）の講義も聞いて、本当に世界的に超一流の音楽と文化に触れて、その世界を体感することを目的とする。

活動内容

「NHK 音楽祭 2008」の活動の一環として、イギリスの世界的なオーケストラである「フィルハーモニア管弦楽団」をウラジミール・アシュケナージが指揮して、シベリウスのフィンランディアとバイオリン協奏曲が演奏される。

今回、音楽を学ぶ学生のために、12 月 8 日に渋谷の NHK ホールでのリハーサルが無料で公開されることになり、本来ならば一人ずつが往復はがきで申し込みをし、抽選になるところだが、今回 NHK のご好意により、筑波大学（引率：三輪）として、個人での手続きなしでまとめて参加させていただけることになった。

活動期間	平成 20 年 12 月 8 日
活動計画	
備考欄	
T-ACT オーガナイザー	後藤　陽介（自然学類）

活動報告

三輪　佳宏（人間総合科学研究科）

活動成果

まず、オーケストラとソリストのレベルの高さに感動したという声が多かったです。特にヴァイオリンやヴィオラパートの人は協奏曲のソロヴァイオリンの難しさを身をもって知っているので、それを軽々と、しかも一流のオーケストラと一緒に弾いている諏訪内さんはやはり素晴らしいヴァイオリニストなのだろう、とのことです。クラリネットの人からは、リハーサルだからある程度力を抜いている感じはあったけれども、全体的な音のバランスの良さはプロならで、自分らもそういう部分を見習ってよい演奏にしていきたい、とのことでした。

僕が個人的に思ったことは､事実として､プロはあまりリハーサルに多くの時間を使わないのは知っていたのですが、いざ目の当たりにすると、本当にこれだけで大丈夫なんだろうか！？と（全然要らないであろう）心配に駆られてしまいました。正直、もう少し確認しないのかな、とか、これだと本番ではどうなってしまうんだろうか、という箇所が無くもないなぁと思うところもありました。（僕だけではなくみんなが思っていたようです。）しかし、それでも本番では素晴らしい演奏をしてしまうところは、アマチュアとは大きく違う、プロであることの証拠なのだと思いました。

今後の課題

その他、今回のリハーサル見学の反省点ですが、もう少し人（特に１年生！）が集まればなぁ、というところでした。全体的に宣伝したり、個人的に誘ったりしてみたのですが、やはりみんな真面目で、僕らが想定するよりも講義を休むことに抵抗があるみたいでした（もちろん当然なものだと思いますが ...）。学生の本分は勉学にあると十分に承知していますが、課外活動もそれと並ぶぐらい大きな学生の活動であると思うので、これからも色々な企画をして、多くの人に参加してもらいたいと思います。

経験者からのメッセージ

世界トップクラスのオーケストラのリハーサルを見学する機会はそうそうあるものではなく、オーケストラをやっている人は勉強になり、やっていない人も新しい世界を垣間見ることができて、とても貴重な体験をすることができました。その貴重な体験にサークルを超えて何人も参加することができたのは、T-ACT の枠組みがあったからからこそだと思います。「とにかくいろんな人に参加してもらいたい！」というような企画を持っている方々は多いと思うので、まずは T-ACT の扉を叩いてみるのはいかがでしょうか。

（プランナーより）メンバーへの連絡の取り方や確認の仕方など、将来社会に出て役立つことが実体験を通じて学べます。またこういう活動を通じて、大学は高度なことを学ぶための勉学の場であると同時に、「社会への窓」でもあることがとても実感できます。そうした経験は本当に社会に出るための就職活動にも大いに役立つことでしょう。

T-ACT に関する感想

せっかく様々なおもしろい活動のアイディアが出て来ているので、ホームページや電子掲示板がフル稼働して、広報力がアップし、より多くの人達に確実にチャンスが広がることが必要だと思う。

活動報告

後藤　陽介（自然学類）

活動成果

日時：2008 年 12 月 8 日（月）、10 時 30 分～
場所：NHK ホール
内容：同日に行われた NHK 音楽祭 2008「フィルハーモニア管弦楽団」のリハーサル公開に参加した。
成果：一流オーケストラのリハーサル公開はそう頻繁に開かれるものではないので、普通に演奏会に聴きに行く以上の貴重な体験ができた。

今後の課題

プランについては、引率の三輪先生（プランナー）が多くのことを進めてくださったために大きな問題はなかった。

平日昼間のイベントであったため、（特に 1 年生の）参加人数が少なめだったように思えた。また、参加者の欠席･遅刻などの管理で多少手間取ることがあった（現地集合であったために少し心配あり）。

経験者からのメッセージ

計画・連絡はとにかく綿密にすべきです。また、募集もできるだけ早めにかけて、
参加者を多くしてイベントを盛り上げることが非常に大切だと感じました。

T-ACT に関する感想

素晴らしくかつ、学生にとってありがたいプロジェクトであると思うので、認知度が
もっと上がればプランナーも多く出るだろうし、T-ACT の後ろ盾があれば、参加しやすい人も多く出てくるかと思います。

※保険について、曖昧なままだと事故が起こった時にいろいろと大変だと思います。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	学生による高校生向け大学 PR 活動 in TOKYO（08007A）

T-ACT プランナー	中倉　広皓（社会工学類）

活動内容

活動目的

伝えきれていない筑波大の魅力を広く学内外に広報することを手段として、学内に居る当事者自身としても、筑波大と筑波大生の存在意義を確認する。

筑波大の入学志望者には入学後のミスマッチを防ぎ、筑波大が好きな学生を増やす。

広く学外に対しては、より開かれた筑波大学としての存在感を強める。

活動内容

大学進学を考えている高校生向けに、学生や教員・職員による簡単なセミナーと、例えば「大学はどういうところか」というテーマで実施するワークショップのようなものを考えている。高校生の立場にも近い学生たちによる手作り感のある活動にし、対話を重視するイベントとすることや、対象を筑波大志望者に限定しないことでオープンキャンパスとは違った大学の広報活動を行いたいと考えている。

活動期間	平成 21 年 2 月 1 日～ 7 月 31 日
活動計画	
備考欄	
T-ACT オーガナイザー	伊藤　文也（社会工学類）
T-ACT パートナー	白川　友紀（システム情報工学研究科・アドミッションセンター）

活動報告

活動成果

構想の策定、AC の実施する大学説明会視察、オーガナイザーの募集活動、ミーティング。

達成度→未実施。

成果→求人の困難さを認識しより積極的かつ目立つ求人活動をすべきであった。プランナーの何としても実施するという強い意志がなければ進まない。

今後の課題

体制を立て直し、計画的で効果的な活動にすべく見直す必要がある。

経験者からのメッセージ

少なくともまだアドバイスできる立場にありませんので。。。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

パーティシパントの募集に至らなかった。

T-ACT に関する感想

学生自由掲示板以外の掲示に関して規制を緩和してほしい。電子掲示板だと「見る」から「連絡」への移行が難しいと思われるので。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	つくろう☆子供遊園地“GOOD JOB”～夢のお仕事体験場～（08009A）

T-ACT プランナー	町田　健登（国際総合学類）

活動内容

活動目的

・毎年５月に開催されるつくばフェスティバルの大学ブースで、子供たちが職業体験できるブースを設け、子供たちに夢と感動を与える。
・グッジョブ通貨を用いることで、市場原理を学んでもらう。キャリア支援
・職業体験で、実物に触れたり、自分の頭で考させることで、普段の学校生活では味わえない貴重な経験を、子供たちに味わってもらう。
・イベントに参加した学生に、誰かのために何かをする喜び、達成感を味わってもらい、平凡な生活に新風を巻き起こす。

活動内容

・職業体験ブースの装置作成やシナリオを描く。
・市や消防と話し合い、現実に近い職業設計ができるようにする。
・近隣の小学校を訪問し、広報する。
・当日、子供たちが円滑に職業体験できるようにサポートする。

活動期間	平成 21 年２月１日～５月 10 日
活動計画	２月　前年度の反省、新職業検討、楽しい仕事プランニング、装置製作 ３月　春休み ４月　職業確定、装置製作 ５月　シミュレーション ２週目土日　本番
備考欄	要望 ・装置が大きいため、運送手段があると助かります。 ・駄菓子屋さんとコネクションがある人がいたら助かります。 ・装置の保管場所（4 月からの 1 カ月間）がほしいです。 ・様々な学類から多くのメンバーを集める必要があります。
T-ACT オーガナイザー	高橋　美保（人文学類）
T-ACT パートナー	加賀　信広（人文社会科学研究科）

活動報告

＜全体＞

・合計 15 個のテントを張り、子供たちに職業体験してもらえるブースを設け、給料としてジョブジョブ通貨を子供たちに渡し、自由に取引できるようにした。
・目標人数は、子供 500 人だったが、土日両日合わせて 1000 人を超え、大盛況だった。どの子供たちも少なくても 2 ～ 3 のテントを回り、多い子は同じ職業に何度も挑戦していた。
・ジョブジョブ（お金）を持ち帰る子供たちが多く、来年度の開催を望む、子供・保護者双方からの声が非常に多かった。

＜各ブース＞

・受付・・・声が枯れるかと思わせるほどの長蛇の列。700 部あったカラー地図やナンバーカードもあっという間に消失 !! 某遊園地を思わせるメルヘンな企画説明が好評だった。マイクを使っての市長からの放送も雰囲気つくりに成果を発揮。
・警察・・・やはり人気度 NO.1。4 つの事件を解決するため、子供たちが街中を駆け回った。犯人逮捕時の気魄は大人顔負けです。
・郵便・・・地図上のポストと番地を頼りにはがきを配達。慣れた子供たちは、自分で番地を見ればどこにあるかわかるように成長した。一番効率よく稼げる場所らしく、常に子供たちが郵便帽子で走り回り、多い子は 5 回以上やっていた。
・病院・・・ぬいぐるみを患者に見立てた診察。本物の聴診器に触れられる機会はやはり珍しく大変好評であった。病気の治療法や種類を学べるいい機会にもなったと思う。
・ロボット･･･段ボールロボットに入ったスタッフが子供たちの命令に従い、任務をこなす。ロボットらしい動きに驚く子もいれば、中に人がいると攻撃する子もいたが、大変好評だった。時間おきのパフォーマンスにしたため猛暑の中でも十分休憩が回せた。
・商店・・・最初は暇だったが、混みだすともう止まらない。販売屋さんも子供たちが担ったが、問題なく売買できた。ほしい商品の値段を見て次の仕事に励むきっかけにも。
・ギターマンドリン・・・ギターのような楽器に触れる機会は子供たちにとっては珍しいらしく、積極的に触れる姿が見られた。楽器が破損することなく無事に企画を終了。
・フォルクローレ・・・珍しい南米の楽器に、むしろ保護者の方々の目が輝き、興味津々な方々が多かった。大人にも喜んでもらえるブースの必要性を感じた。
・エコバッグ作成・・・200 個あったバッグは開始 3 時間であっという間に完売。
・人形工房・・・ブルーシートは常に満員、暑い中子供たちが夢中になって作り続けた。
・冒険家･･･混みだすと一回の冒険に 10 人以上と一緒に旅にでることになった。謎解きや装置がしっかりした分、子供たちの盛り上がり方もすごい。最後の薬か財宝か選ぶシーンでは子供たち同士が自然に議論しあい、ディベートのきっかけや何が幸せか考えるいい機会を与えられたと思う。
・サッカー・・・常に列が並び、ボールを蹴る子供たちであふれた。スポーツは子供たちにとって親しみやすいブースだなと実感した。
・銀行・・・2 メートルの暗証認識式金庫は評判が高い。ここからお金が出る様には子供たちが大いに驚いていた。銀行員になる子供には、何回もリピートする子も出てきた。採用試験も頭の運動にいい機会だったかな。
・ゲル休憩所・・・中が想像以上に蒸し暑く、休憩所の役割を果たさなかったが、会場の見栄えが生え、いい雰囲気作りができたと思う。

今後の課題

・人手不足・・・今年度の盛況を受け、来年度はもっと多くの子供たちが悪天候だろうと来ると思われる。本当に 100 人のスタッフが必要だろう。
・休憩時間の確保・・・全体鬼ごっこ等で強引に休憩時間をとったけれど、稼げて 20 分。予想以上の動員で休憩を回す余裕がなかった。スタッフの健康管理も大切なので、しっかり確保したい。

・景品不足・・・現金でお金を入手していては、お金がいくらあってもたりない。来年は、子供たち自身に景品をつくらせ、それを商店に卸すというルートを作り、景品がなくなる事態を避けたい。
・銀行の拡大・・・企画終盤には、お金に換金しようと銀行に子供たちが殺到。ブースを拡大する必要がある。
・予測したシフト・・・受付は序盤混むのに対し、銀行や商店は序盤は暇である。そのあたりの人の流れを予測し、時間ごとに仕事場所を変え、休める工夫が必要。
・年齢に応じた工夫・・・警察の仕事も中学生には簡単すぎた。年齢別にもっと対応できるようなレベル分けの対応策を練りたい。
・リピーターへの対処・・・警察や冒険家で同じ事件や冒険をする際、その子供が先にネタを話してしまうケースが多くみられた。話すな！というのは不可能なことだから、事件の種類を増やしたり、同一の事件はできないように管理する工夫が必要。また、お金を稼ぐため、何回でもトライできる職業が必須。

経験者からのメッセージ

思い切って、踏みだした一歩は非常に大きな効果を発揮します。この企画を実施している最中に、家具作りが趣味な方から出店のオファーがきたり、別の街の教育委員会の方から、支援をお願いされたり、新たなお祭りのお誘いなどもきました。市の方も、今回の大盛況を受けて来年度は本物の消防士や病院の方に掛け合って手伝ってくれると言っています。また、この GOOD JOB が来年度の GW に東京に進出できる可能性も出てきました。この展開は全く予想していなかっただけに、非常に驚き感動しました。

ただやりたいことを全力で楽しくやる !! その意思で動かした企画が、何か不思議な力によって、大きく動き出そうとしているのを感じています。迷っていたって始まりません。全力で取り組めば、助けてくれる仲間が必ず現れます！また、上記のように不思議な展開が待ってるかもしれません。何より、達成感が計り知れない !! 今までに、何かひとつのことに夢中になって努力して、感動して泣いたことありますか？僕は、今回の企画が終わったとき、まだ会場には子供たちやスタッフも大勢いるのに、感動して号泣してしまいました。この感動は生涯忘れないと思います。

どうやったらいいのか？とか、人手がいないとか問題は山ずみだと思います。プランナーなら、尚更プレッシャーが重くのしかかってきます。でも、それを乗り越えたときに、大きく成長した自分に出会えると思います。

この瞬間は今しかありません !! やりたいことがあるなら、やりましょう !! 誰にでも誇れる思い出を作りましょう！

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

ほとんど休憩なしの過酷な労働だったのに、スタッフ誰としてそのことに文句を言わない。むしろ、みんな自然に笑顔になって、興奮していました。子供たちが笑顔になって喜んでくれるから、「子供たちのために何か自分でしてやれた」と思えて、その達成感がみんなに疲れを忘れさせ、微笑ましたんだなと思います。

特に大学に入りたての 1 年生の顔つきが変わりました。目から熱いオーラを感じます。自分も誰かの心をゆさぶるような、感動させることをやりたい。そういう事を自発的にいう声が増えてきました。子供たちから似顔絵を描いてもらったスタッフもいて、その子の感動、はしゃぎっぷりは度肝を抜くでしょう。僕が泣いた姿を見て、真似できるくらい本気に取り組もうと、今展開中の企画に、真剣に意見をだし考える学生も増えました。ひとつの事夢中になる意義、誰かを喜ばせる意義、そのあたりを伝えられたのかなぁと感じています。

T-ACT に関する感想

・印刷機、ありがとうございました !! 直前の印刷やラミネートがなかったら、今回の成功はありえません。アポ無しでも伺っても嫌な顔ひとつせず、受け入れてくれる先生方の姿に非常に励まされました。

・T-ACT にくる学生って熱い人多いのではと思います。プランナー同士の交流の場とかがあると、お互いいい刺激になって、また企画がつながってより面白い企画ができるのではと思います。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	あなたの小説が読みたい！ー筑波学生文芸賞の作品および一般選考員の募集ー（08010A）

T-ACT プランナー	柏　零（社会工学類）

活動内容

活動目的

文芸作品を学生が選考し、受賞作を決定するために、学生の作品を募集する。

また、本団体は、主に筑波大学全体の創作活動の活性化を目的として創設された。二年目の今年度は、募集地域を筑波大学周辺の大学や地域に広げ、創作活動の活性化を計る。

活動内容

学生から文芸作品および一般選考委員を募る。また、それに際した宣伝・広報活動や、他大学との交流も行う。

活動期間	平成 21 年 3 月～ 6 月（作品および一般選考委員募集期間）
活動計画	
備考欄	
T-ACT オーガナイザー	竹下　薫（生物学類）
T-ACT パートナー	青柳　悦子（人文社会科学研究科）

活動報告

活動成果

《活動内容》

ポスター、ビラ、電光掲示板などを通して、作品および一般選考委員の募集を行った。

《成果》

一般部門作品数：15 作品

ベリーショート部門：40 作品

一般選考委員：3 人

※最低ラインの目標を大きく上回る成果を得られた。

※関連して、委員会自体に入りたいと申し出てくれる人もいた。

今後の課題

我々は、T-ACT の支援以外でも広報活動を行っているので、T-ACT の支援自体がどの程度の成果を上げたのか、純粋な効果を計ることができません。その点がわかるようにする工夫をすることが必要でした、また今後お世話になるときにわかるようにする工夫をすべきだと思います。

電光掲示板の知名度がまだまだ足りないとも思いました。

経験者からのメッセージ

T-ACT は少ない条件を除けば、ほとんど要望の通りに支援をしてくれます。まずは活動を始める際に、要望を伝えて職員の方と話し合ってみると良いでしょう。あらかじめ提示されている支援よりも多くのことをしてもらえるはずです。

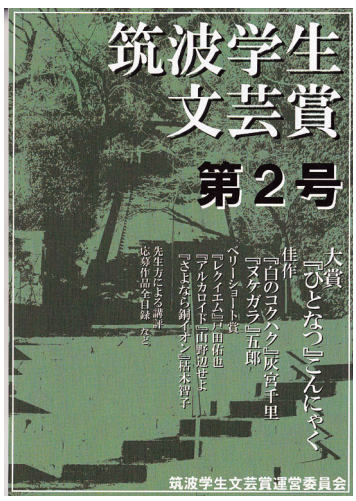
とにかく行動してみてください。助けてくれる人はいっぱいいます。そのひとつとして、T-ACT を利用してみてください。あなたの目標が達成できるはずです。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

特別変化というものはしなかったと思います。ですが、T-ACT の支援には大変感謝していました。また、T-ACT の電光掲示板を見てスタッフに参加したいと申し出てくれた方もいたので、大変助かりました。

T-ACT に関する感想

我々の活動が T-ACT の本来の活動とは異なる存在であることにも要因はありますが、スタッフ自体を募集してはいけないという制約が厳しかったです。ポスターを 2 枚作成したり、T-ACT に関連する活動では募集をしないようにしたりと、大変気を使いました。おそらく、様々なことを懸念した結果の制約だと思うのですが、その点の建設的な改善をしていただければと思います。



T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	アカデミックかふぇ（08011A）

T-ACT プランナー	牧野　美咲（化学類）

活動内容

活動目的

筑波大学には主に３つのサイエンスカフェがありますが、私はサイエンスの分野を越えてより広い分野でのカフェを開きたいと思いました。その名もアカデミックカフェです。

スローガンは「学際人になろう」です。異文化交流ならぬ、異分野交流を気軽なカフェという空間でしたいです。

活動内容

１つのテーマにつき、「講義」と「座談会」という二部構成にしたいと思います。これは毎回毎回「講義」だけにしてしまうと質疑応答の時間があまりとれず、来てくれた方々が消化不良になる恐れがあるからです。まず「講義」の回では先生をお呼びして一般の人でも分かるような面白いお話をして頂きます。そして「座談会」の回ではみんなでその講義に関する疑問や興味を持ったことなどを楽しくケーキやお茶を飲みながら語り合います。この際、様々な学問分野を専攻する人々が語り合うのですから参加してくださった方々に視野を広げてもらえるような場の提供ができると思います。

活動期間	平成 21 年３月１日～８月 31 日
活動計画	
備考欄	
T-ACT オーガナイザー	伊熊　征良（化学類）
T-ACT パートナー	山本　泰彦（数理物質科学研究科） 三輪　佳宏（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

学生と先生、異分野と異分野、人と人。様々なモノがクロスオーバーする対話形式の気軽なカフェ実施を目標として、様々な活動を行った。

まずは、基礎医学系の三輪佳宏先生にパートナー兼ご講演を依頼した。三輪先生はとても気さくな教授で、快く引き受けて下さった。当初「サイエンスカフェ」としていた本企画を「アカデミックかふぇ」と視野の広いものにすればよいとアドバイスを下さったのも三輪先生であった。その後オーガナイザー集めをし、化学、地球、物理、生物、国際、比文、社工、院生という多種多様な仲間が揃った。このオーガナイザー集めだけでも、企画者はアカデミックかふぇの目的を十分果たしていると感じた。様々な学類、学年の人と話すのはそれだけで「アカデミック」な体験であった。

カフェ実施のために毎週火曜日にミーティング（以下 MT）を開いた。「だれもが楽しめる MT にしたい」と企画者は思っていたので、みんなが笑い合える MT 作りを心掛けた。心掛けたことを以下に述べる。

初めて来た人を司会である企画者の近くに座らせる。（これによって話やすくなり、初めてでも周囲と打ち解けられた）

MT に来られなかった人のために、毎週メーリングリストのファイル共有機能を利用して、議事録をアップロードした。（これによって今週はどんな話をしていたのか確認でき、次回 MT に出やすくなった）

何よりも企画者本人が常に楽しい雰囲気を醸し出すことに専念した。（ちょっと冗談を言ったりすることで、周りの緊張も解れた）

MT の際、オーガナイザーの皆さんからの様々な視点での意見は、毎度毎度目を見張るものであった。かつ、担当した仕事をどの人も自ら進んで務めてくれ、非常にスムーズな準備ができた。入念な準備の結果、アカデミックかふぇ（6 月 16 日実施）は素晴らしいものとなった。当初は、オーガナイザーだけの参加となると思われたが、パーティシパントとして外部の方や学生の方が数名参加して下さった。飲食しながら三輪先生の「蛍光タンパク質」の面白いお話を聞くのは、とても素敵な「アカデミック」空間であった。終始笑いの絶えない楽しいカフェとなった。

得られた成果は計り知れない、と企画者は考えている。もちろん、立案から実施への企画することのノウハウを学べた。しかし、それよりも企画者は「大切な仲間」という存在の素晴らしさを切に感じることができたことこそ、本企画の成果だと思う。「仲間」というのは馴れ合いの友達や、ビジネス上の同僚とは全く違う。

それは、同じ志を持った非常に熱い集まりであった。

企画者が一番嬉しいのは、この「アカデミックかふぇ」を企画者以上に愛してくれる仲間たちがいることである。本当にこの企画に集まってくれたオーガナイザーたちは私の大切な仲間だ。みんなに心から感謝をしたいと思う。

そして、自分に自信が持てるようになった。高校時代まで企画者は人に意見を言うことはおろか、ちょっとした頼みごとすら言えない内気な人間だった。しかし、この経験を経て自分に付いてきてくれる人の存在や頼れる人の存在を知った。人と接するのが大好きになれた。こういった面でも、本当にこの企画を立ててよかったと思う。

今後の課題

・パーティシパントが少なかったので、次回からは早め早めの広報活動を心掛けたい
・資金が皆無なので、学祭で出し物をして収入を得ようと計画中
・今一度「アカデミックかふぇのこれから」をオーガナイザーたちと話し合いたい

経験者からのメッセージ

もしもあなたが、友達がいないと悩んでいるなら。
もしもあなたが、個性がないと悩んでいるなら。

もしもあなたが、何もやる気が起きないと悩んでいるなら。
もしもあなたが、大学生活で何か新しいことをしたいなら。

まずは T-ACT へ行ってみましょう。

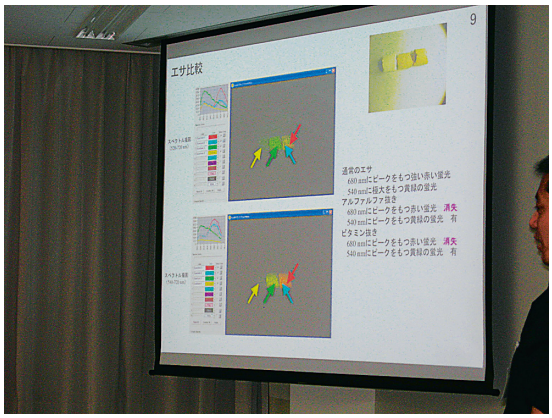
T-ACT はまさに青春の懸け橋となるような場所です。
煌めくあなたの才をどうぞ隠さないで！
ぜひこの筑波大で開花させましょう。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

第 1 回目の企画なので、パーティシパントの変化は不明。

T-ACT に関する感想

ぜひもっと広報活動をして、より多くの人にこの T-ACT の存在を知ってもらいたいです。特に先生方に知ってもらいたいですね。もっとパートナー探しが活発になればいいと思います。全然関係のない学生と教授が知り合えたら、きっと素敵な出会いになると思いますし。



T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	筑波大学の食を変える！！～健康増進×国際協力の可能性を探る～（08012A）

T-ACT プランナー	井口　沙央里（国際総合学類）

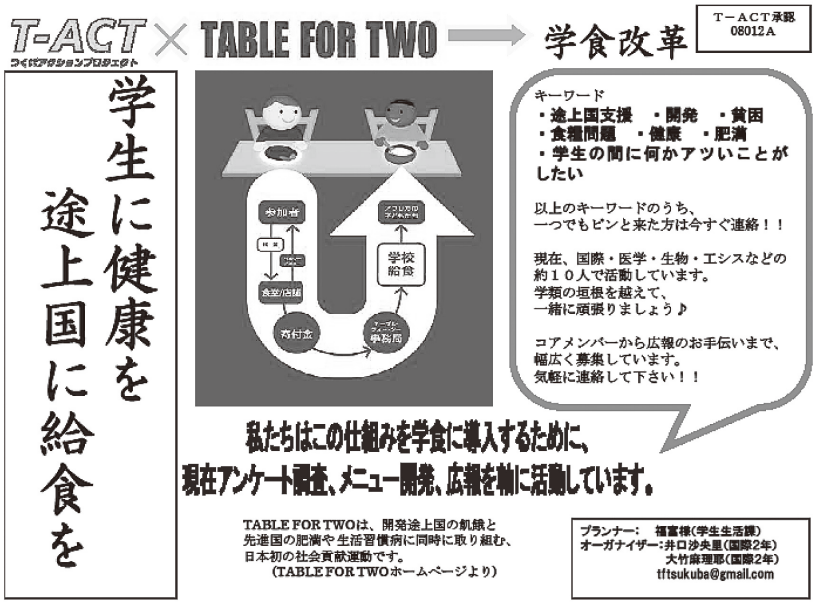
活動内容

活動目的

・筑波大学の食堂にヘルシーメニューを増やし、その売上の一部をアフリカの学校給食の
・寄付に充てることで、学生の健康増進と社会貢献を図る

活動内容

・ヘルシーメニューの必要性や種類など、学生の意見を調査する
・調査の結果をもとに上記の目標を達成するため、学食の企業側と交渉する



活動期間	平成 21 年 5 月 1 日～ 7 月 31 日 5 月中はアンケート配布（全学食堂）、6 月以降は結果分析と学食の企業との交渉
活動計画	
備考欄	
T-ACT オーガナイザー	大竹　麻理耶（国際総合学類）
T-ACT パートナー	福富　明子（学生部学生生活課）

活動報告

活動成果

学食に関する学生の意識調査を行うために、アンケートを作成し、全大学食堂を対象に約 2000 枚を配布。約 800 枚のアンケートを回収することができ、集計、分析を行いました。

また、アンケート配布活動中に学食にも交渉に行くことができ、実際に三学食堂にて新たな学食メニュー（ヘルシーメニュー）の導入が決定しました。

今後の課題

2000 枚のアンケート配布も手配りでしたので予想以上に大変でしたが、特にアンケートの集計が大変でした。これは、運営人数を集めきれなかったことが課題と言えそうです。

経験者からのメッセージ

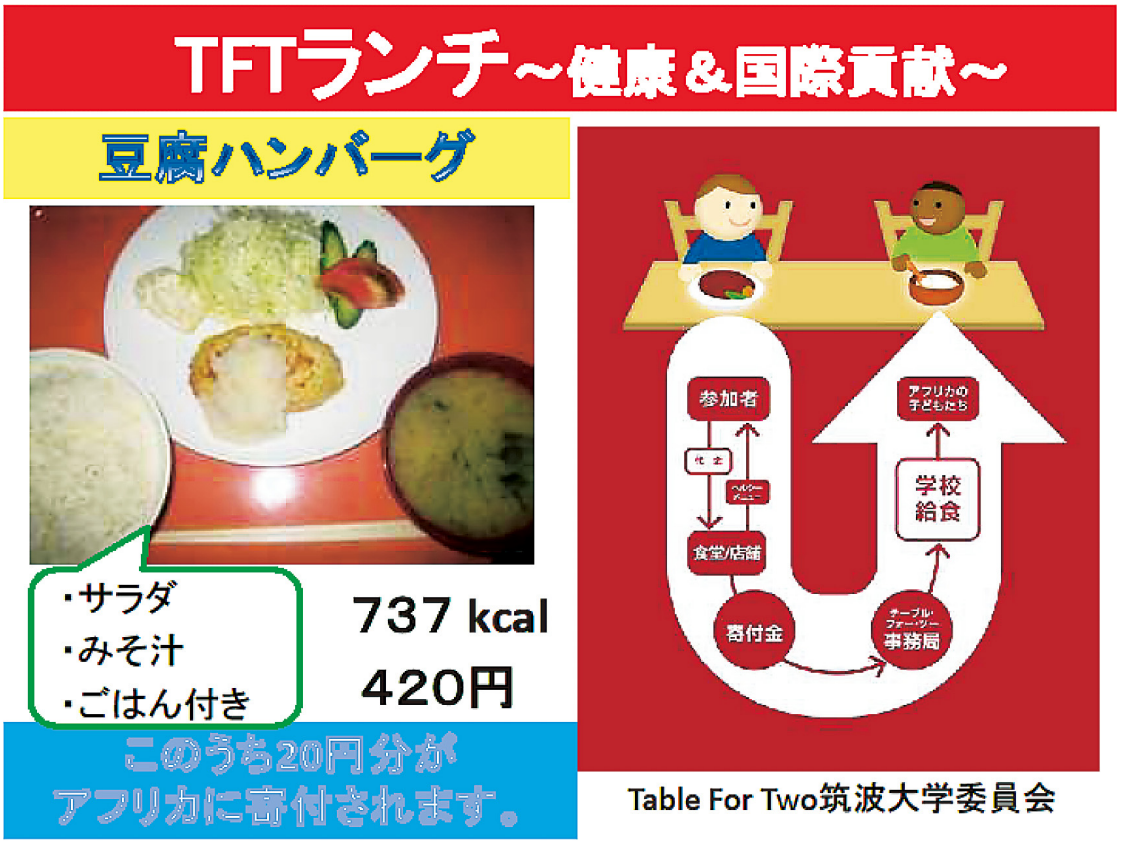
とにかく人数を集めましょう。また、今後より良い活動に発展できるような工夫や努力をすると尚良いと思います。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

初めから大変な作業ばかりで活動してもらえるか不安になった時もありましたが、メンバー間で交流するようになって、みんなで活動しているという一体感が生まれました。

T-ACT に関する感想

できれば、実際に社会に貢献している活動であれば、支援金をもらえるような制度にしていただければと思います。ですが、T-ACT を通していなければ、2000 枚ものアンケート配布はできなかったと思うので、企画を提案して本当に良かったと思いました。



T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	留学生と本学生がつくる国際情報誌（08013A）

T-ACT プランナー	須藤　優花（比較文化学類）
活動内容	

活動目的

・留学生と日本人学生が新聞（雑誌）の制作という 1 つの目標の下、仲間としてより深い関わりを持てるようにすること

・留学生と日本人間の情報交換

活動内容

・週 1 ～ 2 回集まり、テーマを設けて話し合いをする。

・日本人学生とより深く交友したいと思っている留学生及び、海外に興味があり、留学や留学生について知りたいと思っている日本人学生を対象にした新聞作りをする。

活動期間	平成 21 年 3 月 18 日～ 7 月 31 日 情報誌の完成を期間内（7 月 31 日まで）の目標とする。
活動計画	
備考欄	
T-ACT オーガナイザー	草刈　緑（比較文化学類）
T-ACT パートナー	小野　正樹（人文社会科学研究科・留学生センター）

活動報告

活動成果

１．実施した活動内容

不定期に遊びに行ったり、主に日本の料理を手作りをして楽しんだり、日本の観光地に遊びに行ったり、飲みながら取りとめもない話をしてみたりしました。あと、1 週間に一度会議を開いて、企画を立てました。

２．目標達成度

当初の目標は、新聞作りということでしたが、何しろ構成員の最低限のコミュニケーションや生活スタイルから気を使わねばならなかったので、できるだけ広い範囲での募集をし、お互いの理解をし、慣れることに時間を費やしました。当初の目標の達成度という観点では 10% 未満ですが、次の活動のステップにつなげるための課題などが発見でき、有益な時間だったと思います。

３．得られた成果

留学生と日本人学生が、プライベートでも付き合える場であったということ。充分なコミュニケーション能力、文化理解能力なしには、個人レベルでの信頼を築き上げるのは難しいということへの理解。多様性への対応する手段を模索する姿勢。

今後の課題

上のことにも関連しますが、日本人学生側、留学生側で求めているものが違うと言うことにもっと留意すべきだと感じました。

先日 7 月 2 日の全体会議にて、今までの活動の良かったこと、反省点及び、2 学期からの活動の指針について議論をしましたが、その中で出てきた意見が以下の通りです。

①良かったこと

楽しかった。自由な感じやストレスフリーを追求した感じがよい。留学生と知り合いになれてよかった。英語でしゃべれる機会があってよかった。

②反省点

魅力の設定がハッキリしていない。team8 らしさが前面に出ていない。留学生の数が少ない。集まるメンバーが固定化されてきている。男子が少ない。アジア系の人が多い。

経験者からのメッセージ

人を対象にして、人と一緒に何かをやろうとする時、それが自分のアイディアであったとしても、絶対一人ではできないようです。グループは人材で成り立っているのであり、だからこそその人の素晴らしい部分をグループに還元させるというマクロな視点と、多様性を認めたうえで個人個人の利益を考えるミクロな視点の両方が必要です。加えて、自分のやりたいことをはっきり主張して引っ張っていくことが上に立つ場合には必要です。そのバランスが、本当に難しい。ですが、試行錯誤していく中で可能性が広がっていくのが身をもって実感できます。傍で共に頑張ってくれる人がいる場合には、苦労することは必ずいい経験になると思います。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

幸か不幸か、最初からはっきりとした目標や指針を決めていなかったために、参加者には混乱を与えてしまった面もあると思います。

その中で、各自各自が自分で楽しめるように自主的に工夫してくれたようなので、特別にこの活動のために変化したと言うことはないかもしれません。

ただ、意見の中で「プライベートでも留学生・日本人学生と付き合える雰囲気で楽しかった」というものが殆どを占めたことが、変化と言うには弱いかもしれませんが、言及しておきたい点です。

T-ACT に関する感想

T-ACT メンバーが使える空間が欲しい。是非考慮していただきたいと思います。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	つくろう☆リアル RPG ～夢の宝島～（09001A）

T-ACT プランナー	町田　健登（国際総合学類）	
活動内容		
活動目的 RPG ゲームを現実に再現して、子供たちに大いに楽しんでもらい、それを通じて子供達に夢と感動を与える。 加えて、ゲームのシナリオを命の尊さ、現実とゲームの違いを教えられるような教育性・道徳性に富んだものにする。		
活動期間	平成 21 年 6 月 1 日～ 7 月 11 日	
活動計画	平成 21 年 5 月	活動開始 戦闘シミュレーション 現場視察 ストーリー作成
	6 月	ビラ配り 説明会 小道具作成 大道具作成 サブストーリー作成 戦闘練習 演技練習
	7 月	会場設営 リハーサル 本番
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	大川原　友樹（工学システム学類）	
T-ACT パートナー	新井　邦二郎（人間総合科学研究科）	

活動報告

大川原　友樹（T-ACT オーガナイザー・工学システム学類）

活動成果

企画内容を簡単に説明すると、子供達は、この国のお姫様をさらった、モンスターの集団を討伐すべく旅にでる。その際、モンスターとのバトル（mini ゲーム）を通して、宿屋や武器屋、そして魔法屋などで強力な武器や魔法、そして、Boss にたどり着くための鍵を手にいれられる。その際、子供たちには 4 つの職業を選ぶ権利があり、それぞれによって持てる武器、HP が異なる。午前中は、自主的に参加している子供たちが見られたが、強風の影響でフィールドの枠が崩壊してしまい、それからはあまり機能しなかった。とはいえ、自分たちの熱い思いを感じて、子供達は本当に楽しんでくれたと思うし、学生も多くの人が集まってくれて個人的には、大成功だったと思う。祭りの終わりには、まだやっていきたいという子、祭りで使用した武器や道具を持ち帰りたいという子が多くて、自分の「子供たちをもっと元気に !!」という目標は果たせたと思う。

今後の課題

今回の祭りは、子供達にとっても学生にとっても、とても充実していたと思う。しかし、本当に突き詰めて大成功といえるかというと、ハードの面では多くの問題があった。過去を振り返っては、無限に反省点はあるが、特に反省すべし点でいうと以下の三点。

①当日は風がとても強く、ただ板の足元にレンガを置くだけでは十分ではなかった。児童館側に発注してたはずの杭が、当日になって「予算が足りない」とのことで、キャンセルになってしまったのが要因。僕らの思いが伝わってないかと思うと、これには本当にがっかりした。先が見えない中での発注による、無駄な経費が多かったのは否めないので、次回は早期段階で完璧に計画をつめてから、発注を始めたい。

②今回の企画の裏テーマとして、「子供達に、自主性を身に着けてほしい」という考えがあったが、実際にやってみると、子供達は暴力的になってしまい事前にいっていた説明を無視する子が多々見られた。フィールドが崩壊して開放的になったとはいえ、もっと僕達からコントロールを斡旋するべきだったと思う。

③連携体制が著しく悪かった。代表の町田が毎週児童館に出向き、企画説明や進捗状況の説明を行ったが十分に伝わらなかった。そのため、当日になってもお願いしたはずの準備物がなかったり、配置に問題があったりと、当日に変更を余儀なくされた。

経験者からのメッセージ

皆さんに、この企画を通して感じたことは、

①企画内容について

テスト週間、長期休暇、他のイベントとかぶっていないですか？僕たちは、人的資材にとても苦労しました！事前に見通しが立ってないうちに、適当に時期をきめると後々苦労しますよ。

②連携体制について

他団体とコラボ企画をするときは、伝わったと思っていたことが意外と伝わっていなかったりするので、しっかりとしたミーティングが必要です。

具体的に、①定量化をすること②借用書などの書類作成は重要なポイントだと思います。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

最初は、消極的だった参加者も当日になるにつれて、そしてイベントが終わるにつれてどんどん積極的に介入するようになったと思う。やはり、イベントをつくるという純粋な魅力に気付けた人、責任感がでてきた人が増えたからだと思う。

T-ACT に関する感想

今回自分たちが一番困難であったのが、コアメンバーの少なさであった。先日、僕はイベントサー

クルである東京の学生団体のセミナーに参加した。そこには思いも寄らなかった、筑波大学の学生がいた。その生徒に話をきいたところ、「筑波大学に自分のニーズを満たす場所はなかった」とのこと。そんなことはないと思うし、これから、僕たちも人的資材の確保に向けて活動していかなきゃいけないのだが、もしT-ACTの方で、ツールを提供してくれるだけでなく、人的資材に関する有効な戦略論を網羅したセミナーを僕たちに提供してくれるならぜひともお願いしたい。また、そのような学生や社会人との交流ができるような会が、T-ACTさんのほうで企画されるなら、僕たちは嬉しいことこの上ないです。印刷代が無料になるのは、本当に助かるし、テントの際には一足早く動いてくれた樫村さんには本当に熱い気持ちを感じました。

最後になりますが、実際に児童館祭りには、児童館側が雇ったアルバイトの学生がたくさんいた中、僕たちは「つくば市をもっと盛り上げたい!!!」この思いだけで、おおそよ30人のスタッフが動いてくれました。もちろん、そこには報酬といったお金は動いていないし、何か利益がはたらいていたかといいうと、そういうことではありません。ただひとつの思いでここまでこれたこと。これは、本当に学生生活で、大切にすべき思い出だと思います。そんな思いができたのも皆様方T-ACTの協力があったからだと思います。ありがとうございました。本当にありがとうございました。迷惑ながらも、僕たちイベントサークル「ゆーもあ」は、つくば市を盛り上げたい！ただ、その思いだけでこれからも、様々な企画をしようと思います、またご協力をお願いすることがあるかもしれません。その時は、どうか宜しくお願いします。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	オリガミナイト（IBO 折り紙交流会）（09002A）

T-ACT プランナー	牧野　美咲（化学類）

活動内容

活動目的

私は去年 ISEF という世界科学博覧会に出場しました。そのとき、世界中の同世代の人々と言葉を交わし触れ合うことはとても素晴らしい経験であると実感しました。なぜなら、価値観や世界観の違う人と交流するのは自分の視野や感性をより一層良いものにするからです。その経験をまた経験したいと思っていたところ、今年の IBO が筑波大学で開催されるという情報を入手しました。世界中の青少年が一堂に筑波に集まる。こんな素晴らしいチャンスを逃すまいと思い、交流会を開きたいと IBO 主催の先生にコンタクトを取りやらせて頂くことになりました。

しかし、いざ交流会をやるとなるとスタッフが必要になります。そこで、今回交流会を手伝ってくれるスタッフを募集したくて T-ACT に申請しました。最終的な目標は、IBO ファイナリストも交流会スタッフ（筑波大生）も交流会を通して、かけがえのない経験をすることです。みんなで素敵な夏の思い出をつくりたいと思います。

活動期間	平成 21 年 4 月 1 日～ 7 月 14 日（交流会実施日）
活動計画	●交流会内容● ①参加者は折り紙の白い面に何か尋ねたいことを書く。（例えば、”What music do you like?”など。）そして鶴（鶴でなくても可）を作る。 ②参加者にはランダムに小グループに分かれてもらい、輪になってもらう。（1 つのグループは大体 6 人くらい） ③ 6 人が作った鶴をメンバーの輪の中心に置く。 ④自分の以外の鶴を取ってもらう。 ⑤ 1 人ずつ中を開けて、その質問に答える。 ⑥そこから話を広げていく。（例えば上記の質問だったら、”I like house music. How about you?”など） ・何個が作ってもらえば、またメンバー換えして同じことが繰り返せる。 ・パーティシパントには、このグループ活動が円滑になるように参加者をサポートしてもらう。（折り紙の折り方を教えたり、実際に話に参加したりなど）

<table>
<tr><td>活動計画</td><td>●今後のスケジュール●<table>
<tr><td>平成 21 年
6 月上旬まで</td><td>・パーティシパント集め</td></tr>
<tr><td>6 月中旬
（テスト前）</td><td>・企画説明会（どんな企画内容なのかを興味を持ってくれた人に説明する）
・メンバー同士の顔合わせ
・企画についての会議（改善点などを話す）</td></tr>
<tr><td>7 月上旬</td><td>・研修会（折り紙と英語の講習）
・リハーサル</td></tr>
<tr><td>7 月 14 日</td><td>・交流会本番</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>備考欄</td><td></td></tr>
<tr><td>T-ACT オーガナイザー</td><td>下山　せいら（生物学類）</td></tr>
<tr><td>T-ACT パートナー</td><td>丸尾　文昭（生命環境科学研究科）</td></tr>
</table>

活動報告

活動成果

ISEF という自由研究発表の世界博覧会を経験し、企画者は世界中の人々と言葉を越えて素晴らしい交流できることを、身を持って体験した。そこで、今年の IBO が筑波大学で行われることを知り、筑波大生の方々にもそういう経験をして貰いたい！と思い本企画をスタートした。本企画は、IBO で一堂に集まった世界中の青年たちと筑波大生がひと夏の忘れられない交流をする、というものである。

3 月の初めのころ、私は生物学類の IBO 責任者の先生にメールをさせて頂き、本企画に興味を持って下さった尾嶋先生のもとへ企画書を持っていった。そのときは、極めて不十分な企画内容でたくさん訂正する箇所があって、企画実施は不可能に思えた。しかし、尾嶋先生に温かいお言葉を頂きもう一度企画書を作ろうと決意した。その結果、企画を IBO のスケジュールに入れて頂けることになった。

パートナーの先生が決まったので、今度は仲間集めである。本企画は、オーガナイザーが同時にパーティシパントであるという形をとった。これは交流会にスタッフとして働いてもらいつつ、同時に交流も楽しんでもらうためである。よって、企画者の思いとしては「一緒に交流会を作っていく仲間でありつつ、交流会を楽しんでもらうゲストである」というものが仲間集めの時からあった。しかし、この仲間集めは本当に苦戦した。チラシやポスターだけでは限界があることを知っていたからだ。そこで先生や先輩に相談したところ、「身近な友達から声をかけていくといいよ」というアドバイスを頂けた。それに従いまずは身近な友達に片っ端から声をかけていった。声をかけるだけでは本企画の旨が伝わり難いので、一緒に企画書も渡したり、説明会も行ったりした。その結果、10 人程のコアメンバーが揃った。その後、コアメンバーの友達が参加してくれるようになった。コアメンで一度ミーティングを行い、企画の骨格が形成された。また、T-ACT で国際交流を主とする企画があったので、そこのメンバーの方々にも企画参加の呼びかけをし、そこの方にも参加して頂けることになった。この過程で学んだことは、とにかく企画をするときは色んな人に声をかけることが大事だということ。どんな母体にも必ず興味を持ってくれる人がいるのだと痛感した。結果として、化学、物理、数学、地球、国際、生物、生物資源、芸術、院生、学年は 1 年から院生までという多彩なメンバーを揃えることができた。以上までが、期末テスト前までの企画の動向である。

テスト明けからいよいよ本格始動をした。14 日の夜が本番であったので、それまでに準備をしなければならなかった。タイムリミットは約 2 週間だった。準備の方法としては、事前に企画者がメンバーの空いている日を教えてもらい、そこから前日準備を含め 4 日を選び、その 4 日で準備をすることになった。人数がたくさん集まる日を選ぶよりも、くまなく全員が一度は集まれるような日を選択した。準備内容としては以下の通り。

①交流会で会話のきっかけとなるような質問が書かれた四つ折り折り紙づくり（これは入場の際に参加者に配る）
②会場を色鮮やかに飾る折り紙
③「これは何を折っているでしょう ?」というクイズ（動画撮影、パワポの準備）
④国に帰っても折り紙が折れるように折り方が書いてあるお土産プリントづくり（イラレ）

これを 3 日で準備しなければならなかった（残り 1 日は前日でリハーサルをしたかったので）結果として、準備は驚くほど手際よく行われた。本当にとても素晴らしいメンバーが集まった企画であった。一人一人が「自分の個性」を活かして準備ができた。例えば、国際の子たちには色んなものを英訳してもらったり、芸術の子には素敵なエンブレムや名刺を作ってもらったりした。学類の個性だけでなく、その人の持つ個性もよく光っていた。静かだがひたむきに作業をする人、色んな人に話しかけその場を和やかにする人…本当にメンバーの個性がキラキラと輝いていた。素晴らしいメンバーに囲まれて企画者はスムーズに企画のチェックや指示ができた。準備もとても楽しいものとなった。

そして本番。IBO のスケジュールがおした関係で本来 2 時間だった企画は 1 時間弱と短いものになってしまったのが残念だったが、とても素晴らしいものになった。予想より遥かに短い時間でクイズが終わったのは嬉しい誤算だった。事前に交流会の流れは打ち合わせを何度もしていたのだが、結局それは良い意味で役に立たなかった。全ての人が良い笑顔で、カタコトの英語で通じあっていた。

本当に素晴らしい空間だった。会の最後の言葉で私は何の躊躇もなく
I love you!
と叫んでいた。まさに世界を 1 つにする魔法の言葉だった。得られた成果は計り知れない。

今後の課題
・本番に参加できなかったメンバーがいるので、その子達も楽しめる企画を後日やりたい

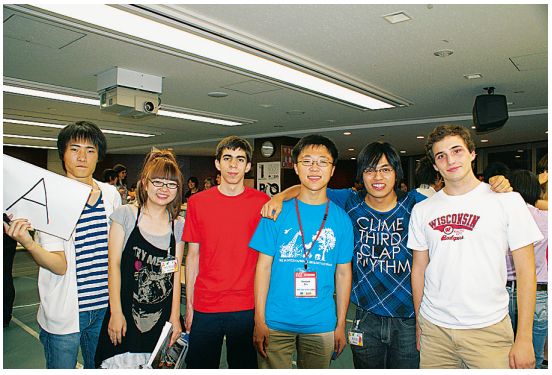
経験者からのメッセージ
　もしもあなたが、友達がいないと悩んでいるなら。
　もしもあなたが、個性がないと悩んでいるなら。
　もしもあなたが、何もやる気が起きないと悩んでいるなら。
　もしもあなたが、大学生活で何か新しいことをしたいなら。

まずは T-ACT へ行ってみましょう。

T-ACT はまさに青春の懸け橋となるような場所です。
煌めくあなたの才をどうぞ隠さないで！
ぜひこの筑波大で開花させましょう。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化
　変化なのかはわかりませんが、とてもいい経験をしたとみんな言っていました。IBO ファイナリストはオリガミナイトが終わった後も寝ずに盛り上がっていたそうです。

T-ACT に関する感想
　ぜひもっと広報活動をして、より多くの人にこの T-ACT の存在を知ってもらいたいです。
　特に先生方に知ってもらいたいですね。もっとパートナー探しが活発になればいいと思います。全然関係のない学生と教授が知り合えたら、きっと素敵な出会いになると思いますし。



T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	つくば市(筑波大学)にワンセグを入れよう!～受信受難地域からの解放へ向けて～(09003A)

T-ACT プランナー	伊藤　一成（教育学類）	
活動内容		
活動目的 筑波大学周辺が、電波の受信受難地域と指定されてある原因を突き止め、解決方法を探り、実際に行動してみることで、大学生活を学術的にも日常生活的にも充実したものとする。 私は、大学一年生の頃から、なぜつくば市は研究学園都市とうたっていながら、最先端の科学技術であるワンセグの電波が入りにくいのか、疑問に思っていた。 最終的には、受信受難地域の解消、ワンセグなどの電波が無理なく受信できるようにしたい。		
活動期間	平成 21 年 8 月～平成 22 年 1 月	
活動計画	平成 21 年 8 月	活動開始 筑波大学構内におけるワンセグマップを作成するための準備及びマップ制作のための活動、およびワンセグとつくば市（筑波大学）に関する電波状況の知識を取り入れる（調査活動）
	9 月～ 12 月	マップ制作の続き及び調査活動の続き まとめの活動など
	1 月	活動終了 活動自体の振り返り及び活動報告書の作成
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	岸田　悟、鈴木　智里、中尾　有貴（教育学類）、 山崎　真実（情報学類）	
T-ACT パートナー	川原崎　雅敏（図書館情報メディア研究科）	

活動成果

8月8日に初回のMTを実施しました。

その後、夏休みをかけてワンセグマップ製作のための大学構内の下見を行いました。

このワンセグマップ製作の主な目的は、筑波大学にワンセグが入りにくい実態を探ることにあります。筑波局と東京局の2つの局から地デジを受信できる筑波大学（つくば市）は、電波の受信受難地域ではありますが、その詳細に関しては調査が行われていません。

そこで、私たちが実態を調査しているのです。

8月中に担当場所や調査方法を決めたので、9月中は各自時間を見つけて、自分の担当場所の調査活動に励んでいます。

また、ワンセグマップの製作・調査活動と並行して、第二東京タワーの建設による電波の影響や、ワンセグ自体に関しての調査活動も行っています。

11月26日現在

テストでみんな忙しい中､順調にワンセグマップの調査が実施されています。年内の完成を目安に、ワンセグマップの制作に取り組んでいきます。

また、10月号の大学新聞の記事で、他のプロジェクトと一緒に掲載していただけたこと、嬉しく、また光栄に思います。

どうもありがとうございます。

みんな新聞を家族に見せたり、仏壇に供えたりするそうです。

つくば市（筑波大学）のワンセグの受信状況ですが､2012年春に竣工予定の東京スカイツリー（電波塔）によって改善される見通しが高いことが分りました。現在の電波の範囲が大幅に拡大されて、受信範囲も広がるため電波状況の改善が見込まれているということです。つくば市の電波状況については、筑波大学新聞の281号7ページを見ていただければ幸いです。つまり、すでに大きな動きが起きているので、僕たちでつくば市に受信状況改善に関する嘆願書を提出しなくともいいということが分かりました。

また、現在は筑波大学構内のワンセグの受信状況に関する「ワンセグマップの制作」を行っています。企画自体は一応終了となりましたが、今後まとめた報告書と「ワンセグマップ」を大学新聞やCAMPUS, STUDENTSなどに掲載依頼に行く予定です。初めのほうで違う担当者が第二東京タワー（東京スカイツリー）に関する調査を実施したときはこのようなことは分からなかったので、再度時間をおいて調査してみて良かったと思います。

最終的に、当初予定していた到達地点からはずれることにはなりましたが、ワンセグの受信状況の改善の見通しが高いということが分かり、また、周囲の人々のワンセグの受信状況に関する興味なども起こったり、自ら企画を実施してみたいというメンバーが出たりと様々なメリットがありました。

メーリングリストを積極的に活用し、みんなのモチベーションを高めたり、情報の共有を行ったりできました。

やりたいことはやろうと思えば何でもできるということが分かったので、これから今以上に積極的になってやりたいことに挑戦していく勇気を貰いました。感謝でいっぱいです。どうもありがとうございました。

今後の課題

なかなか全員が集まれる機会がないので､全員の情報共有をしっかりと行っていく必要があります。今回のプロジェクトは、比較的人数が多かったこともあって予定を合わせるのになかなか苦労しました。しかし、それ以上に次の二点は大きな障害でした。

①目標が定まらない

「ワンセグを入れたい」という根本的な考えは全員できちんと共有していましたが、ではどうすればいいのか、最終的な到達目標は具体的には何なのか、といった事柄が不明確で、それを結晶化するのに時間がかかりました。話し合いを重ねた結果、私たちはまず大学のワンセグの電波状況の実態調査を行い、調査をつくば市に広げ、つくば市に陳情書を提出するという到達目標を掲げて活動してい

ました。

②情報の共有

プロジェクトは全くの白紙の状態からのスタートだったので、活動を行っていくうちに様々な変更点や改善点が見つかりました。これらの障害は、T-ACT コンサルタントやパートナー、パナソニックや NHK の方々からアドバイスをいただき、乗り越えることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

経験者からのメッセージ

多くのメンバーをまとめることはとても大変なことでもありますが、それ以上に企画が終了したときの達成感は予想以上に大きなものです。プランナーとしての中心的な役割にはまず第一に、チームとしての雰囲気作りが挙げられます。他のメンバー同士は知らない人同士であることが多く、どうやって全員の一体感を高めていくのか、常日頃から考えている必要があります。また、全員の中に仲間はずれがいないか、具体的には精神面でもそうですが、仕事の割り振りなども考慮する必要があります。2 つめに、きちんと自分のやりたい方向に向かっているのか、その途中経過をきちんと振り返っていく必要があります。困った時は、T-ACT コンサルタントの方に積極的に話を伺うことも大切ですが、自分の周りの親友などに聞いてみると新しい視点が見つかるかもしれません。

最後に、自分に協力してくれた人、関わった人に対して感謝の気持ちと挨拶を忘れずに取り組んでいけばいいと思います。

やりたいことを恐れず、確固な信念を持って突き進んでいってほしいです。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

以前にもまして、個々人が積極的に自分から課題を発見し、取り組んでくれているような気がします。最初は漠然とした目標設定だったので、その道筋が分からず、自分たちが活動していることが本当に社会の役に立つことであるのだろうか、みんなの役に立つことであるのだろうか、といった疑問を感じていたと思います。しかし、特に大学新聞に掲載していただいた経験を通じて、皆がやる気と熱意を持ってプロジェクトを動かしてくれていることが伝わってきます。

具体的に感じたことは、T-ACT の話をするとみんながなぜか笑顔になってしまいます。また、周りのみんなも T-ACT に関しての理解や興味を示してくれるようになり、プロジェクトに参加していない人同士でも話が盛り上がるようになりました。

なんだか周りに温かい空気が流れているようで、とてもうれしく思います。

ありがとうございます。

これからもますますみんなと一緒に成長していきたいと思います。

では、また経過報告します。

企画を振り返って、最初に自分達の最終的な到達目標をより具体的に定めておけば良かったと感じました。また、企画の期間の関係で途中から参加してくれたメンバーには平等に仕事を分配出来ず、申し訳なかったです。次回からは全体を見通した参加者募集についても考慮に入れて企画を行いたいと思います。

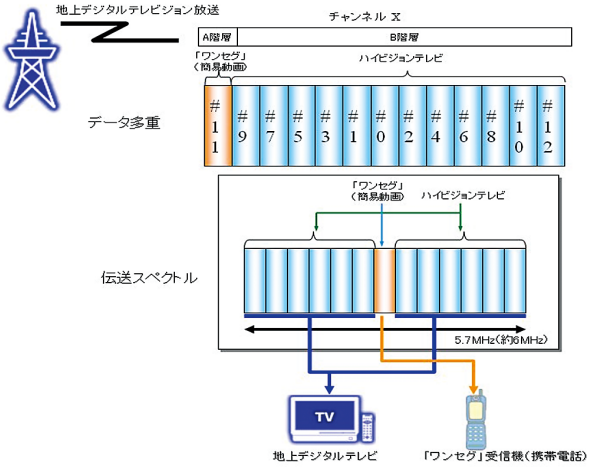
今回の企画を通じて一番感じたことは「人とのつながり」で、全員が同じ意志の下で行動を起こし成し遂げられることの偉大さに感動しました。各自が、企画に参加していないメンバーにも働きかけて調査を行ったり情報を集めたりするなど、積極的な活動を展開しました。今回刺激を受けて、メンバーが自分で新しい企画を立ち上げるという朗報もありました。今回の企画は、コミュニケーションするために必要な「整理する能力」を身に付けるきっかけになったのではと感じています。

T-ACT に関する感想

T-ACT の電子掲示板が立ち止まって見ると目立つ場所にあって見づらいので、見ていても自然な位置に設置してあるといいなと思いました。

たとえば 2 食であれば、延長コードなどを使い 2 食と 2A 棟の間の入り口付近に設置するなどです。

また、パートナーの方がうまく見つからず苦労したので、教員の方にもより T-ACT の存在や活動を知っていただき、プロフィール（正式な HP などでは書けないような身近なもの）なども登録していただけたらいいなと思いました。
ありがとうございました。



T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	女性でもフットサルしようよ！（09004A）

T-ACT プランナー	加藤　愛香里（医学類）	
活動内容	フットサルが流行ってきている中、筑波大学にはフットサルをやっている団体が少ない。特に、フットサルをやっている女性は本当に少ない。 そこで、女性を対象にしてフットサルを広め、様々な人にフットサルの魅力を知ってもらい、その過程でフットサルチームを作りたい。	
活動期間	平成 21 年 10 月 21 日～平成 22 年 1 月 31 日	
活動計画	平成 21 年 10 月 21 日～	活動開始 掲示版や電子掲示板を利用して、この企画をアピールする スポーツデーで、フットサル大会を通して輪を広げる
	11 月～ 12 月	引き続き PR を続けながら、学内（体育間）または学外（有料施設の芝生など）に場所をとって、フットサルを実際にプレーし、そこからまた輪を広げる
	12 月末	メンバーをくなくとも 5 人集め、今後活動についての話し合いをしながら、今回の企画の活動報告書をまとめる
備考欄	フットサルに少しでも興味のある女性、やってみたい女性（経験・年齢はもちろん問わない）	
T-ACT オーガナイザー	吉井　祥子（医学類）	
T-ACT パートナー	西丸　広史（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

活 動 内 容：女性へのフットサルの啓蒙（掲示および、実際に試合を通して学ぶ）
目 標 達 成 度：8 割程度
得られた成果：フットサルをやろう！としていることは周囲に伝わった。
（例えば他の学部の人に、フットサルやってるんだって？と、声をかけられることが多々あった）
少しだけ、フットサル人口が増えた。

今後の課題

利用できる広告媒体がいまいちよくわからないまま終わってしまいました。もったいなかったです。

経験者からのメッセージ

がんばってください。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

わかりません。

T-ACT に関する感想

医学にもテレビを持ってきてほしい。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	キャンパスツアー（大学案内）でのキャンパスアテンダント体験（09005A）

T-ACT プランナー	酒井　佑弥（情報メディア創成学類）

活動内容

活動目的

筑波大学のキャンパスツアーを行うことを軸として、筑波大学を目指す受験生を応援するために立ち上げられたプロジェクトです 。現在、高校等からの要望を受けての大学案内は、大学職員の方が行っていますが、ここはやはり元々受験生だった現在の学生である我々が、大学を案内してあげたいと思い、この活動を行っています。

1 回の活動に付き、およそ 2 時間～ 4 時間。朝もしくは昼前ごろから始まり、昼食を挟んで午後まで活動する場合や、午後の 2 時間程度の活動となる予定。メインメンバー（オーガナイザー）は基本的に毎週金曜日の 6 限目に定期ミーティングを行う。また活動によっては臨時ミーティングも行う場合有り。キャンパスアテンダント（パーティシパント）は、自分の参加する（したい）活動に該当するミーティングには必ず参加、定期ミーティングは任意。

内容としては、筑波大学を目指す受験生に向けて、学生側から筑波大学を案内しながら紹介（キャンパスツアー）し、また学生生活について、授業内容に関して詳しく紹介したり、学内や地域の雰囲気などを伝える活動（高校生との対話）を行います。

主軸は以下の三つとなります。

●広報室によるキャンパスツアーの同行

（大学広報室の方と一緒に行動、受験生のお世話などのお手伝い）

●キャンパスツアー

（私たちがツアーを計画し案内します）

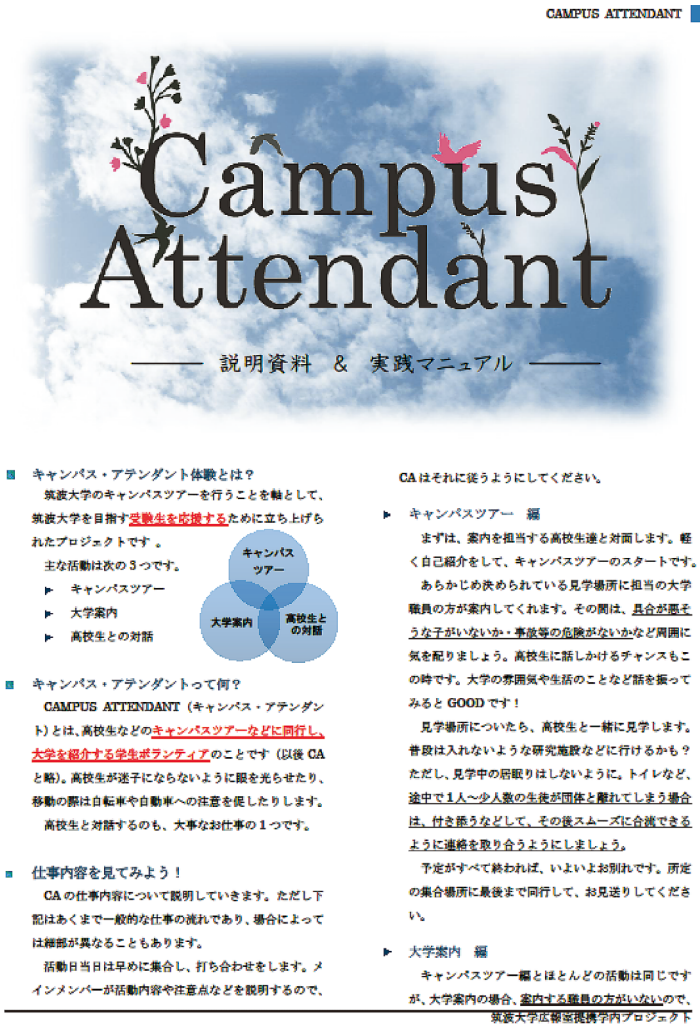
●高校生との対話

（教室などで受験生の質問などに答えたり、学生生活などを教える）

活動期間	平成 21 年 6 月からの 2 ヶ月間（1 学期目）。期間内に複数回の活動。

活動計画	平成 21 年 6 月	活動開始 メンバー募集の後、説明会を開催。（人数によっては 2 回ほど予定） 説明会では、すでに制作済のマニュアルを配布 今後の予定案件の解説と、キャンパスアテンダント参加リクエスト受付 1 年間これまでの活動を知ってもらい、雰囲気を伝える定期ミーティングで打ち合わせ 新メンバーも含めて次ぎの案件について予定調整と、打ち合わせ 案件のタイムテーブルに沿ってこちらで出来ることの企画 →案件は大学広報室から提供、複数案件あるのでそれに併せてキャンパスアテンダントの人数調整や予定調整 当日実際の動きをメールにて、キャンパスアテンダントへ伝える → 必要が有ると判断できれば、事前ミーティングを開いてキャンパスアテンダントへ解説 キャンパスアテンダント及びメインメンバーから、昼食代の入金を行うための銀行口座を聞く
	6 月中	活動日（数回有り） メインメンバーは随時、キャンパスアテンダントを指揮する キャンパスアテンダントは活動が円滑に行えるようがんばる 受験生とのふれあいを通して、懐かしく思ったり、昔の自分を思い出して精一杯アドバイスなどをしていただけたらと思う 活動日終了後 活動日の当日は日程がすべて終了した後は、概ねすぐ解散 反省と感想をキャンパスアテンダントからメールにて貰い、そのメールをもってキャンパスアテンダントの活動は終了 後日、出来れば感想メールを記入していただいた人から、昼食代の入金を広報室からしていただく 反省会は定期ミーティングにて メインメンバーとしての反省を行う ここでの反省と感想、及びキャンパスアテンダントから提出して貰う反省と感想文をまとめて、T-ACT への活動報告書をまとめる また、反省は今後のマニュアル製作の為に生かす予定 メインメンバーが、反省と感想をまとめ、ブログ（予定）へ対外的に情報発信も行う
	7 月まで	夏休みと共に 1 学期の活動は終了

活動計画	目標として	この活動を体験してもらい、受験生とのふれあいが持てる、もしかすると目の前に昔の自分が居るかもしれない。そんな受験生のちょっとした助け船になれる活動がある、というのを知って貰いたい。 また、キャンパスアテンダントは筑波大学を代表することになるため、責任感も伴う活動となる。しかしやり遂げた後の達成感や、やり甲斐を感じて頂いて、ボランティア活動も良いものだと知って貰いたい。 それに、普段は行けないような大学内の研究所や施設を一緒に見学することが出来るので、いつも通っている筑波大学の再発見にも繋がればと思う。
備考欄		
T-ACTオーガナイザー	辺見　知代（知識情報・図書館学類） 影山　啓太（知識情報・図書館学類） 妹尾　文香（芸術専門学群）	
T-ACT パートナー	生井　栄（広報室）	



CAMPUS ATTENDANT 1

Campus Attendant

説明資料 & 実践マニュアル

■ キャンパス・アテンダント体験とは？

筑波大学のキャンパスツアーを行うことを軸として、筑波大学を目指す受験生を応援するために立ち上げられたプロジェクトです。

主な活動は次の３つです。

- キャンパスツアー
- 大学案内
- 高校生との対話

■ キャンパス・アテンダントって何？

CAMPUS ATTENDANT（キャンパス・アテンダント）とは、高校生などのキャンパスツアーなどに同行し、大学を紹介する学生ボランティアのことです（以後 CA と略）。高校生が迷子にならないように眼を光らせたり、移動の際は自転車や自動車への注意を促したりします。

高校生と対話するのも、大事なお仕事の１つです。

■ 仕事内容を見てみよう！

CA の仕事内容について説明していきます。ただし下記はあくまで一般的な仕事の流れであり、場合によっては細部が異なることもあります。

活動日当日は早めに集合し、打ち合わせをします。メインメンバーが活動内容や注意点などを説明するので、CA はそれに従うようにしてください。

▶ キャンパスツアー　編

まずは、案内を担当する高校生達と対面します。軽く自己紹介をして、キャンパスツアーのスタートです。

あらかじめ決められている見学場所に担当の大学職員の方が案内してくれます。その間は、具合が悪そうな子がいないか・事故等の危険がないかなど周囲に気を配りましょう。高校生に話しかけるチャンスもこの時です。大学の雰囲気や生活のことなど話を振ってみると GOOD です！

見学場所についたら、高校生と一緒に見学します。普段は入れないような研究施設などに行けるかも？ただし、見学中の居眠りはしないように。トイレなど、途中で１人～少人数の生徒が団体と離れてしまう場合は、付き添うなどして、その後スムーズに合流できるように連絡を取り合うようにしましょう。

予定がすべて終われば、いよいよお別れです。所定の集合場所に最後まで同行して、お見送りしてください。

▶ 大学案内　編

キャンパスツアー編とほとんどの活動は同じですが、大学案内の場合、案内する職員の方がいないので、

筑波大学広報室提携学内プロジェクト

活動報告

活動成果

3 回の活動を実施した

● 7 月 3 日 水戸桜ノ牧高等学校
● 7 月 8 日 埼玉県西部学園文理高等学校
● 7 月 16 日 山梨県駿台甲府高校

夏休み中の活動になってしまった事もあり、非常に人数を集めるのに苦労したが、いずれも実施することが出来た。

桜ノ牧高校、西部学園文理高校はどちらも広報室の大学案内に同行という形で、昼食時に各食堂を案内したり、中央図書館を案内したりという活動を行い、駿台甲府高校ではそれと合せて高校生との対話を行った。前者は、参加人数が約 40 名前後、後者の駿台甲府高校は約 260 名と大規模となった。いずれにせよ行程はやり遂げられたが、様々な問題が浮かび上がってしまった（今後の課題欄に記入）。

目標として掲げていた、

1．この活動を体験してもらい、受験生のちょっとした助け船になれる活動がある、というのを知って貰いたい。
2．やり遂げた後の達成感や、やり甲斐を感じて頂いて、ボランティア活動も良いものだと知って貰いたい。
3．いつも通っている筑波大学の再発見にも繋がればと思う。

この 3 点はおおむね達成出来たかと思う。3 回の活動の中で毎回反省会を行って活動したメンバーから感想や反省を聞いているが、2 番や 3 番に関して「やって良かった」と言う声が聞けているので、恐らくやり甲斐を感じてもらえているのだろうし、見学中の大学内での問題点（学食が分かりづらい、迷路のようだなど）もきちんと把握して居るので、言い換えれば大学内にはそのような問題点が存在していることを再発見出来ている、と言ってしまっても良いのかもしれない。

1 番に関しては、体験した人が、他の人にもどんどん話してもらって、参加人数がもっと増えれば、きっと達成したことにしても良いのかもしれないが、現状ではまだまだ知って貰えていないと思う。

CA が高校生を待っているところ

西部学園文理高校の様子

駿台甲府高等学校の様子

帰って行くのを見送る様子

今後の課題

●時間に追われることが多いので、余裕を持った活動はしづらいが、それも醍醐味か？しかし昼食の時間も少ないと食べるのに追われて何も会話出来なかったりするのでどうにかしたい。
●学校によって雰囲気が違い、どのように接したらよいのか戸惑う場合が多々見られる。文系・理系に分けた際にも、男子・女子と分けた際にもやはり違うので、その辺はもう経験をため込んでいくしかないのだろうか。
●受験生との対話では、質問が上がらない際の対処をどうするかを決めておかないと本当に何も質問が来ないときにこちら側が詰まる。そんなことが無いのが望ましいのだろうが、残念ながらそうはいかない。
●誘導中、列が乱れに乱れるし周りを見ようともしない為、自転車との接触など流石に恐怖を抱かざる終えない場面も見られた。交通安全指導員では無いのだが、指導するほか無いのだろうか…。
●学生が案内しているが、だからといって興味を引けるとは限らない。しかしやはり、施設の紹介をしてる時、話を聞いてくれていないのは残念。
●自分の所属学類（学群）以外の学類はどう説明したら良いか難しい。
●何も知らない人には敷居が高そうに感じる、たとえば受験生に大学を説明するとか、そういう風に見えるようなので、広報活動も改め直したい。
●高校 1 年生が相手だと、対受験生という心構えをしていくと拍子抜けしてしまう面がある。ただ、大学というところに興味を持ってもらえるようするだけでも良いと思っているので、こちら側もあまり気張らず、良い意味で気軽に接していきたい。
●文系・理系が一緒のグループを案内すると、片方が興味持てない分野になった時かわいそうかも？
●受験生のグループ内で会話をしてしまい、私たちが近くにいても誰も話しかけてこない。悲しいが人見知りしているだけ、なのだと思っておく。
●興味が無い子に興味を持たせることは難しいし、それが簡単ならば学校教育はうまくいくのだと実感できた。どうしようもないのだろうか？
●何より人が集まらない。最大限やっているが、どうもあと 1 歩引きづり込むような、学生を釣る何かが欠けている？ようだ。ポスターを改良したり、更なる告知手段の模索を続けたい…。

経験者からのメッセージ

人さえ集まれば、だいたいうまくいきます。人を集めればいいと思います。資金に困っているうちが花だと思います。お金で解決するなら、簡単なので…。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの様子

上記のような手厳しい評価の反面、自分も確かにそうだったという話で、本当に大学を志すのはおおむね高校 3 年の夏休み以降みたいなので、まあいろんな意味で仕方ない部分があるのは確かだという声が上がった。また、やっぱり分からないでもないので、当時はああだったこうだった、という会話で盛り上がるなどした。

そしてやはり、疲れるが楽しかった・面白かった、久々に自分より下の年の子とふれ合えて刺激的だった、懐かしかったという声が必ず聞かれたし、その中に一人でも筑波大学に入ってみたいと言ってくれた子がいると、かなり充実感が得られるのは間違いないようだった。また、集まったパーティシパントも積極的に活動して頂ける方々ばかりで、大変助かった。

T-ACT に関する感想

T-ACT 自体が全然楽しそうじゃないので、『T-ACT は楽しそう』な雰囲気を作ってください。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	小学校の先生体験プログラムー蚕飼小サポーターー（09008A）

T-ACT プランナー	藤井　孝良（人間学類）	
活動内容		
活動目的 下妻市立蚕飼小学校に筑波大生が長期間あるいは短期間、ティームティーチングの授業支援や英語活動、音楽、体育、理科などでの技術指導を行うことで、学校教育を通しての地域貢献をはかることを目的とする。 発起人自身が今年度で卒業するため、来年度以降への活動の継続を最優先に、意欲のある学生を募りたい。 また、プランナーは社会福祉研究会に所属しているが、本活動は社会福祉研究会の活動とは切り離して実施したいと考えている。 すでにプランナーは蚕飼小学校に 1 年間以上ボランティアとしてかかわっており、校長先生や PTA の方も筑波大生のボランティア参加のさらなる充実を希望している。		
活動期間	平成 21 年 7 月～ 11 月初旬まで （小学校の夏季休業期間を除く 3 ヶ月間）。	
活動計画	平成 21 年 7 月	活動開始 広報活動を開始し、パーティシパントを募る。
	7 月 ～ 10 月 （7 月 20 日 ～ 8 月一杯は 休み）	一日体験を実施 パーティシパントの都合を調整し、小学校へ実際に体験に行く。運動会、音楽祭などの学校行事に参加する。 学生による授業をつくる（条件が合えば）
	10 月末	活動終了 総括。今後の活動継続等も含めて話し合い、報告書をまとめる。
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	桜井　淳平（人間学類）	
T-ACT パートナー	浜田　博文（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

昨年度同様、運動会、蚕飼まつりなどの運営への参加をはじめ、日常的な授業支援や子ども達との関わりができた。

新型インフルエンザなどの影響もあり、計画通りとはいかなかったが、一定の成果が見られた。

今後の課題

自家用車の確保および、活動の認知に対する個人的な力量不足を感じている。
せっかく興味を持ってくれても車がなければ足を運べないこと。受け入れ側の学校という社会にボランティアである大学生がどう向き合っていくか、そこで尻込みしてしまう。
今後は教職関係の授業を中心に個人的に呼びかけ活動を展開していきたい。

経験者からのメッセージ

たった4年間の大学生活、どうせなら人生を360度変える経験を!!

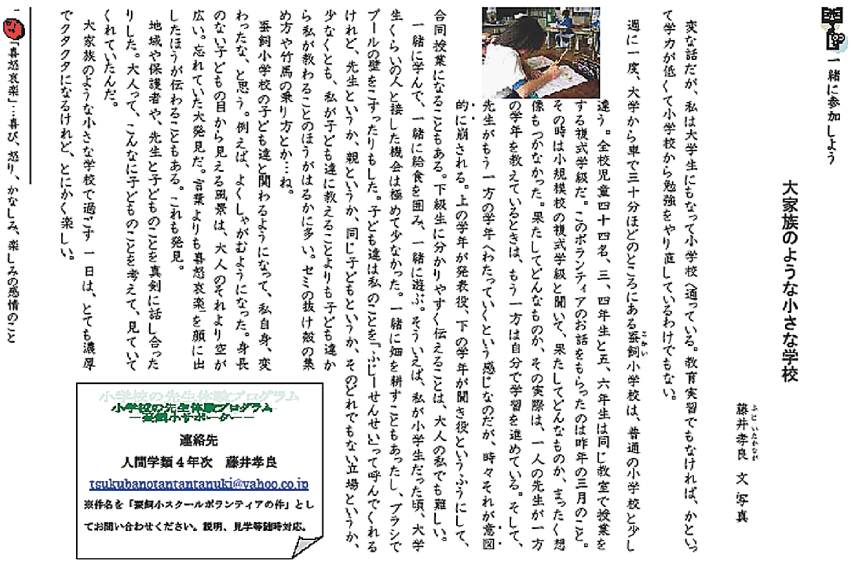
特に、筑波大学はこれまでつくば市やその周辺の地域社会との関係構築が不十分な点があり、筑波大生とつくば市民のつながりはあまりない。これはつくば市にとっても、大学生自身にとっても非常にもったいないことだと思う。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

参加者が1名にとどまり、その上3日間程度の参加であったため、明確な変化を感じ取ることはなかったが、終始地域住民や子ども達、先生方との交流を運営者以上に積極的であった。

T-ACT に関する感想

学校側との折衝などの面で大変ご協力いただき感謝している。ただ、学生への認知度と効果的な告知システムの向上を望む。先日筑波大学新聞に T-ACT が特集されていたが、実質的な加盟学生数が二桁程度では、筑波大学の事業としては機能していないのと同じではないか（筑波大学新聞の記者は好意的な論調であったが…）



一緒に参加しよう

大家族のような小さな学校

藤井孝良　文・写真

変な話だが、私は大学生にもなって小学校へ通っている。教育実習でもなければ、かといって学力が低くて小学校から勉強をやり直しているわけでもない。

週に一度、大学から車で三十分ほどのところにある蚕飼小学校は、普通の小学校と少し違う。全校児童四十四名、三、四年生と五、六年生は同じ教室で授業をする複式学級だ。このボランティアのお話をもらったのは昨年の三月のこと。その時は小規模校の複式学級と聞いて、果たしてどんなものか、まったく想像もつかなかった。果たしてどんなものか、その実際は、一人の先生が一方の学年を教えているときは、もう一方は自分で学習を進めている。そして、先生がもう一方の学年へわたっていくという感じなのだが、時々それが意図的に崩される。上の学年が発表役、下の学年が聞き役というふうにして、合同授業になることもある。下級生に分かりやすく伝えることは、大人の私でも難しい。

一緒に学んで、一緒に給食を囲み、一緒に遊ぶ。そういえば、私が小学生だった頃、大学生くらいの人と接した機会は極めて少なかった。一緒に畑を耕すこともあったし、プラシでプールの壁をこすったりもした。子ども達は私のことを、ふしーせんせいって呼んでくれるけれど、先生というか、親というか、同じ子どもというか、そのどれでもない立場というか、少なくとも、私が子ども達に教えることよりも子ども達から私が教わることのほうがはるかに多い。セミの抜け殻の集め方や竹馬の乗り方とか…ね。

蚕飼小学校の子ども達と関わるようになって、私自身、変わったな、と思う。例えば、よくしゃがむようになった。身長のない子どもの目から見える風景は、大人のそれより空が広い。忘れていた大発見だ。言葉よりも喜怒哀楽を顔に出したほうが伝わることもある。これも発見。

地域や保護者や、先生と子どものことを真剣に話し合ったりした。大人って、こんなに子どものことを考えて、見ていてくれていたんだ。

大家族のような小さな学校で過ごす一日は、とても濃厚でクタクタになるけれど、とにかく楽しい。

「喜怒哀楽」…喜び、怒り、かなしみ、楽しみの感情のこと

小学校の先生体験プログラム
蚕飼小サポーター
連絡先
人間学類4年次　藤井孝良
tsukubanotantantanuki@yahoo.co.jp
※件名を「蚕飼小スクールボランティアの件」としてお問い合わせください。授業、見学等随時対応。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	Tsukuba Campus Positioning System の運用− Web で筑波大学を解りやすくしよう−(09009A)

T-ACT プランナー	石山　幹史（人文学類）	
活動内容		
全国でも、有数の広さを持つ筑波大学筑波キャンパスは、その広大さや構造などから、学内に慣れ親しんでいないものはもちろんのこと、学内関係者でも、その敷地内で迷うことは少なくない。 そこで、学内での自己位置認識に特化したシステム Tsukuba Campus Positioning System（以下 TCPS）を用いて、筑波大学でのキャンパスライフで重要な情報は何かを、学生の立場・視点から考え、TCPS 上に載せるコンテンツを形成し、携帯電話で見られる形にして提供を行い、学内での空間的意思決定を速やかにすることを目的とする。 本計画は学生がその視点から、筑波大学を Web 上に再構築することで、筑波大学に対する認識や関心を深め、またそれにより筑波大学の問題点を見つけ出し、それに対してどのようなアプローチによる解決を図れるかを考える機会を創造することも目的である。		
活動期間	平成 21 年 7 月 17 日〜 10 月 31 日	
活動計画	平成 21 年 7 月〜 8 月	7/28 〜 30 のオープンキャンパスにおいて、高校生等の大学見学者を対象とした運用を行い、以後 8 月末日まで公開を続ける。 TCPS に載せるコンテンツの概要決定ならびに情報の収集・確認作業の実施。コンテンツ記載完了、動作確認試験を行う。 オープンキャンパスでの使用のため各学群の担当者等、諸関係者と面会し、システムの説明を行う。
	7 月〜 9 月	オープンキャンパス計画と並行して、学園祭でも実施するため実行委員会への説明を行い、理解を得るとともに（企画申請済）、記載する企画団体との接触を図る。
	10 月末	10 月より学園祭に先駆けてシステムを開放し、対学園祭運用開始。学園祭終了まで運用を行う。そして運用結果をまとめ報告を行う。
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	杉山　貴俊（システム情報工学研究科）	
T-ACT パートナー	白川　友紀（システム情報工学研究科　アドミッションセンター）	

活動報告

活動成果

本アクションは、Tsukuba Campus Positioning System（以下 TCPS）という学内向け GPS を運用し学内での移動をスムーズにすることを目的としており、主に学外者が多くキャンパスを訪れるオープンキャンパスと学園祭を対象として活動を行った。

GPS のインターフェイスツールとしては、現在携帯電話の多くが GPS 機能を搭載していることが多いためこれを利用した。

QR コードから web にアクセスしてもらい、そこから位置情報を入手し地図に反映させ、自己位置を認識してもらうとともに、目的地との相対的な位置関係を把握してもらえるようなシステムを構築した。

TCPS の構築に関しては株式会社シンプルウェイと同社の CTO である石川貴士氏の協力のもと行われた。

活動としては、システム構築がメインではなく、どのようなコンテンツが求められどのようなにシステムに反映させるかということを考えて、コンテンツを集め・編集し、広報をどのようにしたら利用者が増えるのかについて考え、行動することが主なものであった。

a. オープンキャンパス

実施期間はオープンキャンパスと同じ 3 日間である。システム上に掲載した情報は、各学群の説明会場、アドミッションセンター主催の説明会会場、各食堂、図書館、宿舎、主なバス停であった。QR コードの告知に関しては、ポスターとビラを制作してアクセスを促すようにしたものの、積極的な広報活動（ビラまきやポスターの自由な掲示）は認められず、各学群の説明会場の入口にコーナーを設け、そこにポスター・ビラを設置する型式となった。ビラの推測消費数は 400 枚である。

利用件数は 3 日間で 2000 アクセスである。もっとも検索されていたのが宿舎であった。

b. 学園祭

実施期間は前日から行った。システム上に掲載した情報は、学園祭参加全企画の企画名・主催団体名・位置・開催日時、バス停である。企画情報に関しては、デフォルトとして上記の情報について掲載を行い、それ以外の情報（メニューなど）を掲載することを希望した企画に対しては、アカウントを発行し、各自の企画の情報を編集できるような対応を行った。

QR コードの告知に関しては、ポスターとビラを作成し、学園祭実行委員会が定める広報活動を行ったほか、TX つくば駅前にてもビラ配布を行った。ビラの推測消費枚数は 300 枚である。

利用件数は約 1000 回、3 日間で延べ 3000 アクセスである。

今後の課題

各実施とも、全体に対して利用率が少ない。これは広報活動が満足に行えなかったことが原因であると考えられる。しかし、ビラの推定消費枚数からみると、アクセス数は多く潜在的な需要があったと考えられ、本アクションの意義があったものと推測できる。

もっとも活動中に感じたのが、人員不足であった。システムの情報を集め、掲載の準備を進める一方、広報活動に関する許諾の手続きをとり、人員募集の為のポスターを作りと、並行していくつもの作業を進めなければならず、苦労をした。もっと人員がいれば作業を分担して進めることが出来たと思われる。

しかし、そのために広報をしなけらばならず、そこに避ける人員もおらずと悪循環に陥っていたことも事実である。アクションを起こす前にある程度の人員に関して集めておく必要があると思われる。またそれに起因して広報活動を思ったほどできず、アクセス数を伸ばすことも困難になっていったと思われる。

経験者からのメッセージ

⑤にもあげたとおり、マンパワーはいかなる企画においても重要である。現状としてポスターをは

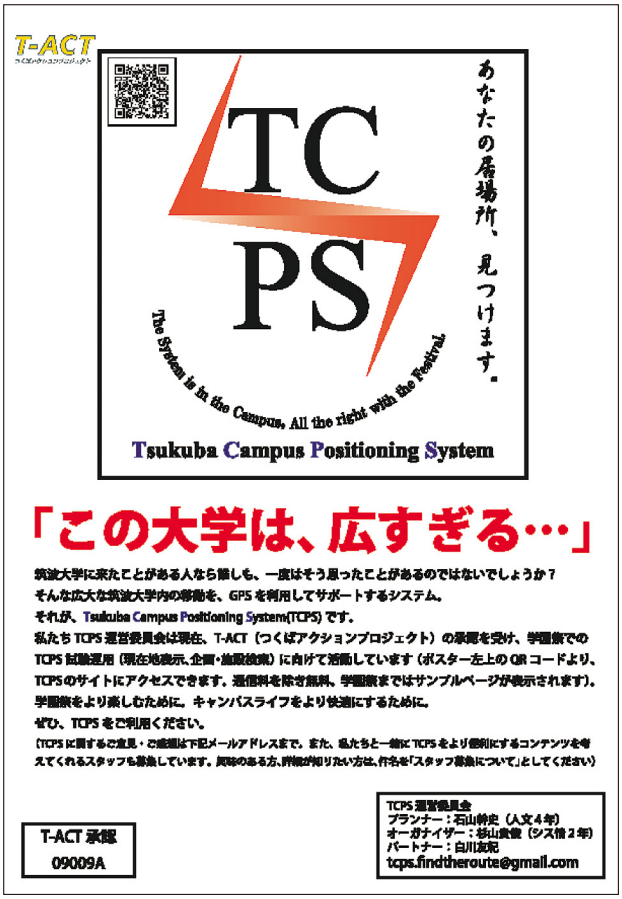
じめとする広報ではなかなか人が集まらず、実際に動いているアクションを見ても、プランナーを中心とする人間関係あるいは、特定にサークル・団体など依拠してマンパワーを獲得しているものが多い。

よって、アクションを行う際には、自分の身の回りの人間関係から協力者をある程度募ってから行動したほうがよい。アクションを進めながら人員募集をすることはなかなか困難であり同時進行は厳しいものだからでもある。

もし、このような人が見つからない場合は、他のアクションに参加してみてそこで人間関係を築くことをお勧めする。アクション参加者は比較的好奇心旺盛なので、興味を示してくれる可能性が高いからである。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

システム上に載せるコンテンツについて、オープンキャンパスではあまり利用者ということを意識せず、ただただ情報が載せられている貧弱なコンテンツであったが、学園祭用のコンテンツを準備しているときには、学内に不慣れな人が目印にしやすいモニュメントを載せるのはどうか、地区の名称が旧学群の影響を受けておりこれでは学外の人がわかりにくいのではいだろうかと等の利用者の立場に立った意見が目立ち、実際にこの中のいくつかの提案がシステムに反映することができ（モニュメントの掲載）、自分以外の立場について考える、利用者を想定するといった簡単ではあるが、実際なかなか考えることができないことが、思考のどこかに顔を見せるようになり、変化が見られた点である。



T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	筑波大学都道府県人会ポータル作り（09010A）

T-ACT プランナー	岡村　直貴（図書館情報専門学群）	
活動内容		
筑波大生交流支援 筑波大学には県人会がたくさん存在する。しかしその活動実態や組織は、大学側から公認されているわけではないので、存在するかしないかさえもわかりにくい状況となっている。そのため、現在の各県人会の実態を調査し、ポータル（入口）の確立と運営存続のウェブサイトを作成する。県人会は非公認の組織ではあるが学園際においては認知度が高く、環境を整備することにより、結びつきを深められる大学にしていきたい。 今回の活動を通して、筑波大生の誰もが地元と筑波大学というつながりを持っており、その小さなつながりを大きな輪になるイベントを企画して、一つの目標としたい。		
活動期間	平成 21 年 8 月 5 日～平成 22 年 1 月 31 日	
活動計画	平成 21 年 8 月～	活動開始 メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
	9 月～	ウェブサイト、都道府県人会 リーフレット（筑波大生向け）の制作 各県人会からも意見をもらい、活動内容の調査
	10 月	学園祭・リーフレット配布 学園祭において各県人会ごとに都道府県人会リーフレットを配置してもらい、県人会へ入りやすい雰囲気を作ってもらう
	10 月～	ウェブサイトの公開 ウェブサイトを利用して、各県人会のメンバー募集やイベントの告知を行う
	12 月	都道府県人会ポータルイベントの開催 イベントの開催により、それぞれの県人会と結束を図り、これまで各県人会の所属していなかった人たちも仲間に入るきっかけとする
	～ 1 月	活動終了 メンバーで最終振り返り、活動報告書の提出
備考欄	各県人会の代表者ならさらに歓迎。県人会の所属していなくても全然大丈夫！	
T-ACT オーガナイザー	守屋　俊甫（人間総合科学研究科）	
T-ACT パートナー	伊藤　太平（学生部学生生活課）	

活動報告

活動成果

10/10 ～ 12　筑波大学雙峰祭

「都道府県人会紹介のしおり」と題して、リーフレットを各県人会のブースに配置して、学生や来場者に対し、県人会の認知を行った。発行部数は 400 部。受け取った学生は、こんなに県人会がいろいろあるんだぁと改めて筑波大学の魅力を感じ取っていた人もいた。

今後の課題

連絡手段に乏しく、メールでのやり取りだけでは、応答が少なくまとめづらい。プランナーの個人的な都合により、時間を取ることができない。全学的な取り組みを行う際には、計画の段階で時間の把握を行わなければいけない。今後、都道府県人会を把握するには、何らかの取り組みが欠かせない。

調査で分かったことは、県人会の存在は年々理解されているが、参加する人は一部の県人会を除いて、少ないといえる。筑波大生は、みんな忙しく、ただでさえ開催回数が少なく、県人会に参加しづらい雰囲気となっているのが現状である。

今後の課題としては、学内全体に各県人会の存在を周知するための一案として、県人会の日もしくは県人会週間なるものを設定し、ローカルな仲間や先輩から身近に筑波大学を共有できる機会があることを、広報していけたらいいと思う。具体的には、筑波大生がつくばに帰省せずにいる時期やイベントやサークルのシーズンオフを狙って設定するといったような戦略も必要である。

筑波大学が津々浦々から集まった人たちの全国区の大学であることを歳認知させるとともに、筑波大学らしさの確立のために、後継してくれる人を待ち望む！

経験者からのメッセージ

T-ACT のプランナーは、経営者である。筑波大学内外での短期的な活動に対し、可能性を確かめることができる点では、非常によいシステムである。しかし、活動には（モノによるが）資金が必要なこと、人の労力やコネが必要なこと、ある程度の賛同を得られるまでにはノウハウが必要であり、習得しようとするまでに時間がかかること、が挙げられる。

大学という教育研究機関としては、非常に合理的なことを行っていると思う。プランナーであれ、パーティシパントであれ、何か物事を考え、どのように行ったら円滑に進むのかを考え、実際に実行する。これは、大学のいわば、研究に準ずる活動ととらえることもできる。何かの目標ややってみたらどういう風になるだろうと思うような活動を、起こす、ことでそれが私の例のようにほとんど失敗に終わったとしても、それが将来の糧となり、自分で探るこれこそまさに現在、初等教育で進められようとしている教育に類するものである。

筑波という場所を考えると、個人的には色々の題材が転がっていて「いじり甲斐」があるので、小さなことでも大きなことでもいいので考えてみることからはじめよう。どんなものでも、どんなことでも、それらの物事を通り過ぎるか、気になって仕方なくなるかは自分しだいであるから。あとは、時間配分、日程調整は人を相手にするときが最も労力を費やすので考えながらやってください。

以上、筑波大学 LOVE?。対外的にも、内外的にも楽しいことを考えてくれたらそれだけで筑波大学は学生が活き活きしていると感じるので、大学側にとっても貢献できると思います。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

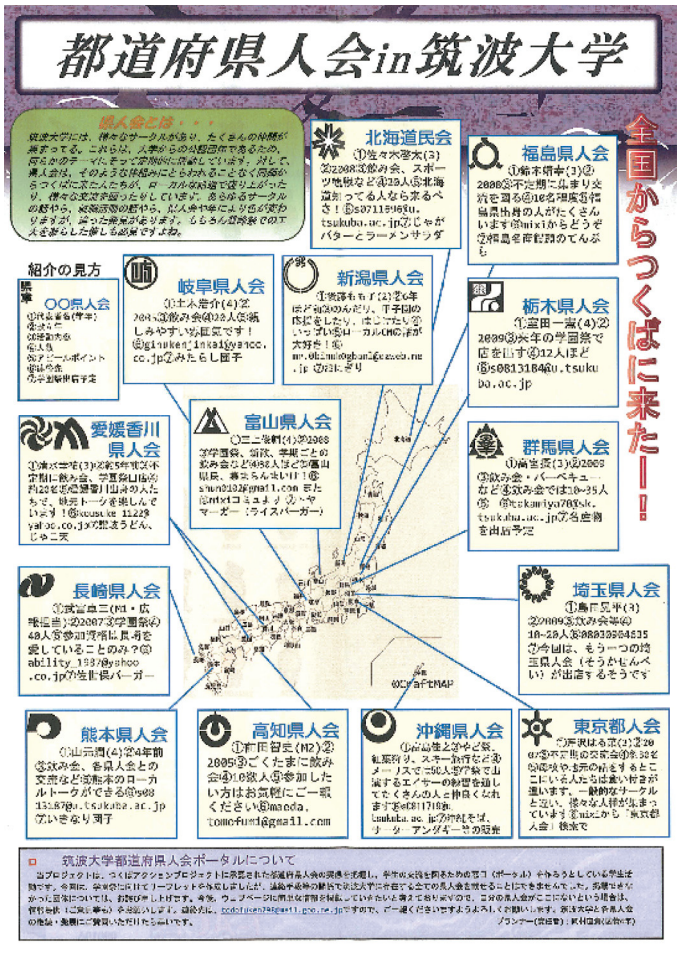
特にないです。たくさんの人にメール等、送ったら十数名から返答が得られ、参加者もそれなりに集まった。

T-ACT に関する感想

T-ACT ではないが、全学的な教室の予約システムを導入し、教室が空いているかどうかを把握できるようにしてほしい。体育センターでは、すでに導入されているが、検討の余地はないのであろうか。

広大なキャンパスだからこそ、もっと学生生活のサポートにウェブの活用に力を入れていただきたい。

筑波大学 都道府県人会のしおり
筑波大学都道府県人会ポータルによる
YAMAGATA
IWATE
AOMORI
AKITA
HOKKAIDO
FUKUSHIMA
MIYAGI
CHIBA
YAMANASHI
NIIGATA
IBARAKI
SAITAMA
KANAGAWA
GUNMA
TOKYO
NAGANO
KYOTO
GIFU
AICHI
SHIZUOKA
MIE
TOYAMA
KAGAWA
SHIGA
TOCHIGI
FUKUI
OKINAWA
TOKUSHIMA
NARA
OITA
KUMAMOTO
HIROSHIMA
KOCHI
OSAKA
SHIMANE
TOTTORI
YAMAGUCHI
OKAYAMA
MIYAZAKI
KAGOSHIMA
OKINAWA
KASUGAI
KASUHARA JOB WORKS
専英グリーティングより
発行者：【T-ACT承認】
筑波大学都道府県人会ポータル
http://blog.goo.ne.jp/todofuken298
todofuken298@mail.goo.ne.jp
協力者：各県人会のみなさま
発行日：2009年10月9日
T-ACT
T-ACT承認
09010A


都道府県人会in筑波大学
県人会とは・・・
全国からつくばに来たー!!
北海道県会
①佐々木亮太(3)
②2008③飲み会、スポーツ地域など④25人⑤北海道知ってる人なら来るべき！⑥s0711896@u.tsukuba.ac.jp⑦じゃがバターとラーメンサンダ
福島県人会
①鈴木晴幸(3)②2008③不定期に集まり交流を図る④10名程度⑤福島出身の人がたくさんいます⑥mixiからどうぞ⑦福島名産餃子のてんぷらも
紹介の見方
○○県人会
①代表者名(学年)
②出身地
③参加者数
④人数
⑤メールアドレス
⑥連絡先
⑦その他特記事項
岐阜県人会
①土木岩介(4)②
2004③飲み会④20人位⑤楽しみやすい雰囲気です！⑥gifuken_tonkai@yahoo.co.jp⑦みたらし団子
新潟県人会
①笹森もも子(2)②6年ほど前③のんびり、千子団の団結をしたい、はこづたら②いっぱい⑤ローカルCHC洋が大好き！⑥nr.0b1mu0gban2@ezweb.ne.jp ⑦ねこぎり
栃木県人会
①室田一海(4)②2009③六年の学園祭で店を出す④12人ほど⑤s08131b4@u.tsukuba.ac.jp
富山県人会
①ニシ塚剛(4)②1988③学園祭、新歓、学期ごとの飲み会など④50人ほど⑤富山県民、暮らしらないけ！⑥shun2102@gmail.com または@mixiコミュメノ ンヤマーガー（ライスバーガー）
群馬県人会
①高宝彦(3)②2009③飲み会・バーベキューなど④飲み会では10-35人⑤ ⑥tsukamiya70@sk.tsukuba.ac.jp⑦名産物を由后予定
愛媛香川県人会
①清水二平(3)②2005年頃(不定期に飲み会、学園祭山伝説)④28名⑤愛媛香川出身の人たちで、県民トークを楽しんでいます！⑥kousuke_1122@ybb.ne.co.jp⑦肥えうどん、じゃこ天
長崎県人会
①武富由二(M1・広報担当)②2007③学園祭④48人⑤参加意識低い者を愛していることのみ？⑥ability_1987@yahoo.co.jp⑦生肥根バーガー
埼玉県人会
①島戸晃平(3)
②2009③飲み会等④10-20人⑤08033054635
⑦今回は、もう一つの埼玉県人会（そうかもんべい）が出来るそうです
熊本県人会
①山元潤(4)②4年前③飲み会、各県人会との交流など④熊本のローカルトークができる⑤s0913578@u.tsukuba.ac.jp⑦いきなり頭下
高知県人会
①吉岡智宏(M2)②2005③ごくたまに飲み会④10数人⑤参加したい方はお気軽にご一報ください⑥maeda.tomofumi@gmail.com
沖縄県人会
①泡盛と③やど飯、転居祭り、スキー旅行など④メーリスで50人ほど？集って山頂するエイサーの練習を通してたくさんの人と仲良くなれます⑥s0811710@u.tsukuba.ac.jp⑦沖縄をは、ナ ッ アンダギー等の販売
東京都人会
①戸沢はる菜(2)②2009③不定期の交流会④8.9割は地元や、生元の話をするとここにいる人たちは違い校舎が違います。一般的なサークルと近い、様々な人材が集まっています⑤mixiから「東京都人会」検索で
筑波大学都道府県人会ポータルについて
当プロジェクトは、つくばアクションプロジェクトに承認された都道府県人会の現状を把握し、学生の交流を図るための窓口（ポータル）やカラクとしている学生は勤です。今回は、学校内に向けてリーフレットを作成しましたが、最終年度時の最終では筑波大学に在籍する全ての県人会を網羅することにできませんでした。現時点でなかった団体については、お知らせしたいです。今後、ウェブページに掲示板情報を掲載していきたいと考えております。この県人会がここにないという場合は、有料会員（ご寄付）を歓迎します。連絡先、todofuken298@mail.goo.ne.jpですので、ご一連ください。ぜひよろしくお願いします。筑波大学と各県人会の橋渡し・発展にご貢献いただければ幸いです。
プランナー(発信者)：武村亜貴(総務)

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	第一回・天の川クリーンプロジェクト（09011A）

T-ACT プランナー	金岡　孝浩（人文学類）	
活動内容		
率直に言えば、現在の天の川は藻が浮かび、ヘドロが漂うとても汚い川です。天の川は、大学中央という目立つ場所を流れているため、とても人目につきます。そのため、非常に衛生的にも精神的にもよろしくない影響を与えています。 そんな天の川を、大学広く公開される一大イベントである学園祭までにきれいにする事を目標に、本活動を実施します。また、来年度以降も天の川が汚れる可能性があるため、天の川掃除自体は来年度以降も実施していきたいと考えています。 長期間かつ天候に左右される活動です。パーティシパントがたくさん必要となります。「天の川を少しでもきれいにしたい」という、本企画の目的に少しでも同調していただけるなら、学生・職員は問いませんので、是非ご参加ください。あなたの力が必要です。よろしくお願いします。		
活動期間	平成 21 年 8 月 5 日～ 10 月 31 日	
活動計画	平成 21 年 8 月	T-ACT 申請 活動開始
	9 月 1 日～	広報活動開始
	9 月 12 日～ 13 日	一斉活動日・水位下げ作業（ネット設置によって下流の汚染を防ぐ）
	9 月 14 日～ 25 日	放課後活動・ブラッシング（メーリングリストによって連絡・招集を行う）
	9 月 26 日～ 27 日	一斉活動日・予備日（天候による作業の遅れを挽回するための予備日）
	10 月中旬	報告書作成
備考欄	イベントサークル「ゆ～もあ」さんに掃除技術の伝授・掃除道具の貸し出し・人的協力等の協力をお願いしました。また、本活動と直接的な関わりはありませんが、「ゆ～もあ」さんの方で学園祭の時に「きれいになった天の川をアピールする出展」を行う予定です。	
T-ACT オーガナイザー	高橋　美保（人文学類）、田幡　琢磨（人文学類）、 高原　駿（工学システム学類）	
T-ACT パートナー	土子　昇（学生部学生生活課）	

活動報告

活動成果

2009/08/05：T-ACT 企画として承認される。活動開始。

2009/08/17：施設部さんとの打ち合わせ。
施設部さんの道具面での協力を得るに至る。同時に天の川の視察へ。水を抜くと中流の藻が腐敗し、悪臭の原因となるため、上流のみならず、中流の掃除も必要であることが発覚した。

2009/09/02：パーティシパント募集が本格始動。電光掲示板資料完成。農協に電話で長靴のレンタル支援をお願いするも、断られる。

2009/09/03：サークル関係・T-ACT 関係各方面への連絡メールを流す。

2009/09/08：施設部さんのご協力により、十分な数の用具が集まる。

2009/09/09：全代会本会にオブザーバーとして出席し、本企画への参加のお願いを行った。数名の学生が参加の意思表明を行ってくれた。

2009/09/10：ウォーターフロントプロジェクト（以下 WF、敬称略）さんと面会。WF さんからは人的な協力を、本企画からは活動結果･反省点の WF へのフィードバックをする事で合意。

2009/09/11：前日準備。用具の搬入、シャワー室の下見、木枠の作成を行った。

2009/09/12：活動初日。しかし、雨天のため延期。

2009/09/13：活動開始。前日の中止のために水位が予想以上に下がっていたが、大して問題なくスムーズに進んだ。日曜日にもかかわらず、10 人ほど参加してくれた。本当に感謝したい。
中流の大中規模の藻はあらかた除去した。しかし、下流に藻がたまってしまう結果となった。水が蒸発した時に藻が本当に臭いださないかどうかも心配だ。
今後の成果いかんによっては、打開策を打ち出す必要があるだろう。

2009/09/14：活動二日目。上流・中流の藻はあらかた駆除したが、ヘドロが取れない。ポンプで水位を下げてスコップでくみ上げなければならないだろう。魚の捕獲方法も考えなくてはならない。また、准教授から本活動についてのご指摘を頂いた。プランナー金岡、鬱になる。

2009/09/15：活動三日目。水位が予想よりも下がらず、苦戦。さして効率も上がらないヘドロ回収で貴重な作業時間をつぶしてしまった。
明日からポンプを稼働させる予定。

2009/09/16：活動四日目。ポンプを稼動させたが、水深が浅すぎて 20 秒ほどでエンストすることが判明。メンテをしつつ吸水。
連動して、魚の捕獲作業を行う。20 匹ほどの 15 センチほどの魚と、100 匹余りのメダカ大の魚を捕獲し、下流に放流した。
しかし、まだまだ天の川には救う事のできる小さな生命がいるので、今後とも魚の下流への放流は続けたい。

2009/09/19：水を完全に干上がらせる。スコップでヘドロを掬い出す作業を本格開始。

2009/09/25：悪臭の原因である上流のヘドロを全滅させる。

2009/09/27：一斉作業日。参加人数は 10 人ほど。ホースで放水してブラシングを行った。

2009/09/28：最終作業日。橋の下のヘドロの 80% を処分した。

2009/09/29：片付け初日。土嚢およそ 100 個を農林技術センターに破棄した。
これをもって、天の川掃除は用具洗浄と中央の窪みのヘドロ解消を残すのみとなった。
学園祭を待つのみとなる。

2009/10/02：10・2 事件起こる。大雨により、天の川増水。中央の窪みに押し込めたヘドロが増水に伴ってあふれだしてくる。少数のメンバーで深夜までかけ、ポンプで水を排出した。しかし、橋の部分へヘドロがたまってしまう結果となった。

2009/10/07：深夜、台風来る。天の川の水がまたあふれだした。

2009/10/10：学園祭、掃除人員の一部がゆ～もあさんの出店に協力する。

2009/10/15：片付け。用具類をすべて返却。

2009/10/23：打ち上げ。

今後の課題

＜用具の調達＞

今回は施設部さんのご協力により、十分な数の用具が集められました。しかし、参加者次第では足りなくなる可能性もあります。今回の企画では長靴販売の外部企業、農林技術センター等を当たったが、いずれも協力を得るにはいたりませんでした。今後拡大する可能性のある本活動にとって、用具の更なる調達は重要な課題になると思います。

今回用いた用具は、大熊手 5 本、デッキブラシ 5 本、水切りブラシ　5 本、竹箒 2 本、土嚢 300 個、スコップ 5 本。あと、手袋はマジで必要です。ゴムのならさらに良し。

＜天の川の構造自体の問題＞

・上流の水は中流に流すしかない。
　⇒中流汚染の原因となる。
・循環する噴水
　⇒きれいにしても、下流の水が上流の噴水から出てくるため、無限ループ状態である。
　⇒天の川の構造を変えるか、水そのものを浄化するか、いずれか。
・掃除中に中流から発生する悪臭
　⇒原因は、中流に流れてしまったヘドロが腐ってしまう事。

＜パーティシパント不足＞

今回の参加者側のメリットは、社会貢献ができるという点と天の川がきれいになるという二点であった。ゆ～もあさんは、それに加えて学園祭時に使用できるというメリットもあった。しかし、これらのメリットのみで天の川に入れる心意気のある人間はなかなかおらず、苦戦を強いられた。次回以降は、参加者を集めるためにより強力な新たな動機付け（たとえば、報酬としてのお金や、掃除自体を楽しくする等）を考えたい。

経験者からのメッセージ

天の川は半端な覚悟と人数では手を出してはいけません。今回は平均して休日 5 ～ 10 人、平日 1 ～ 5 人の人員で戦いました。死にます。今回参加した人たちは、いずれも「来年以降はお金出ない限り絶対やらない」と言っています。

僕がこの企画で学び取った事をお話します。基本的な事だと思いますが、交渉は相手にも利益が無ければ絶対に成功しません。企画が大掛かりになればなるほど、外部団体との協力が必須になってくると思います。そんなとき、自分達の意見・理想・やりたいことをただ押し付けてお願いするだけではダメです。ちゃんと相手に利益があるように話を持ちかければ、もっと言えば相手にも利益がある団体を選んで話を持ちかければ、きっと交渉は良い方向に向かうと思います。それは、参加者募集の際にも同じで、参加者が「参加してメリットのある活動」であると感じれば、おのずと参加者は集まるでしょう。

天の川掃除の反省点は、参加者のメリットを軽視していた点に尽きると思います。

しかし、逆にいえばそれは「人数さえいれば、天の川はいくらでもきれいになる」という事でもあります。天の川清掃は間違いなく「社会貢献」であり、「ボランティア」であります。非常に有意義な活動であると、私個人は思います。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

天の川をきれいにしたいから、ボランティア活動がしたいから、T-ACT 証明書が欲しいから。それぞれこの企画に参加した理由は違えど、そんなのものともせずに積極的にパーティシパント・オーガーナイザーの間での交流が進んでいた。

そこは「せっかく掃除するんだったら、楽しくやりたい」というゆ～もあさんの理念に沿った成果となった。しかし、掃除が延長戦に突入すると、参加者にも厭戦（?）気分が蔓延し、参加者は日に日に減少していった。

これは、やはり動機付けが弱いことが原因であると思われます。繰り返しになりますが、参加者の動機づけの強化。これが最大の問題点です。

T-ACT に関する感想

こちらの必要性に合わせてお金を捻出してほしい。条件・本当に必要か否かの判定は T-ACT 側で判断していただいてかまいません。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	筑波大学生の就活に対する不安を吹き飛ばそう“内定者懇談会”（09012A）

T-ACT プランナー	染谷　悟（人間総合科学研究科）	
活動内容		
活動目的 自分自身、就活を経験した中で、筑波大生は都内の学生に比べて就活の動き出しが遅いと感じました。その一因としては、都内の学生に比べて就活に関する情報や、周囲・先輩からの刺激が少ないことが考えられます。 そこで、就活生の方に内定者と話して頂くことで、就職活動に対する不安解消やモチベーションの向上を図ることを目的とし、交流の機会として“内定者懇談会”を企画します。 しかし、就活に対する不安を抱えるのは就活生だけでなく、学部の 1, 2 年生なども同様です。より多くの学生が本企画へ積極的に関わり、それを通じて大学全体の就活意識を高めていく為、幅広い学生へ協力者を募集したいと考えます。		
活動期間	平成 21 年 9 月 1 日～ 9 月 17 日	
活動計画	平成 21 年 9 月	活動開始 （企画運営スタッフ募集）
	9 月 3 日 9 月 10 日	MT （当日の動きなどの確認）
	9 月 17 日	内定者懇談会 （当日の会場誘導、並びに記録作りなど）
	9 月 31 日	活動終了 （感想をまとめ、大学新聞などに寄稿）
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	天野　智広（数理物質科学研究科）	
T-ACT パートナー	加賀　信広（人文社会科学研究科） 久保田　優（学生部就職課）	

活動報告

活動成果

☆活動内容

2009 年 9 月 17 日　15 時～ 17 時半

筑波大学会館 3 階　特別会議室へ。有名企業に内定した 2010 年卒予定の筑波大学生 21 名を集め、就活生との懇談会を行いました。参加した就活生は 40 名程度。当日アンケートに回答頂いたのは 37 名でした。

☆目標達成度

イベントが満足するものだったか、の問いに対して 100 点満点で採点してもらい、集計した結果、平均満足度 86.7 点となりました。

☆得られた成果

概ね、「実際に就活をした学生からしか聞けない情報が得られて良かった」という声が多く、筑波大学の就活生が今後の就活を乗り越える上で良い情報収集の機会になったことと思います。

今後の課題

T-ACT を申請したものの、新規のスタッフを確保することができずより多くの学生を巻き込むという点では失敗してしまったと思います。

考えられる問題点としては

・筑波大学生の低学年層は就活に対する意識が希薄な為、興味を持てる内容ではなかった点

・運営側も、ビラでの告知などは行えていなかったので、周知が足りなかった点

があげられます。

また、イベント自体の問題としては行う時期が早かったという点が上げられます。

通常、筑波大学生は学園祭後にサークル活動を引退して就職活動をはじめるといったケースが多く見られ、よほどモチベーションが高い学生で無いと参加しづらかった、ということが考えられます。実際、参加していた就活生は T-ACT の分類でいう「活発な」学生群であり、その分満足度が高かったと考えると結果に一致します。

経験者からのメッセージ

T-ACT の登録者が現在は少なく、インパクトは少ないのが現状ですが、徐々に参加者が増えることでインパクトは大きなものになると思います。

申請する過程や、企画実施後の手続き等は学生にとっても勉強になる部分が多いので、ぜひ積極的な申請を頑張って下さい＞_＜

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

実際に参加した学生からイベント後にメールを頂きました。

本日は貴重なお話を聞かせていただきまして、誠にありがとうございました。筑波大からは理系の院生、文系の学部生から各 1 名、2010 年度採用のキーワードは「誠実さ」など、普通に過ごしているだけで入手できない情報を知ることができ、今日の内定者懇親会に参加させていただき、本当に良かったと思った次第です。三菱商事は自分が興味を持っているエネルギー部門に強いので、内定者の染谷様から今後も是非、お話しを聞かせていただければと思っております。

イベントに参加して就活を知っていく中で、参加者の就活に対するモチベーションは高くなっている気がします。これまで筑波大生は「就活生個人で戦う」という姿勢が多かったですが、内定者と就活生がタッグを組んでという意識も生まれましたしイベント後に行われた飲み会で就活生同士チームを組んで就活しようという意識も生まれました。

T-ACT に関する感想

T-ACT の影響力をあげるために・・・

①大学生全体の加入をして欲しい（希望者のみ、であれば活発な学生群しか関わらないという現状は変わらない気がします）

② T-ACT のポスターを貼っていただく場所を増やして欲しい（電子掲示板だけでなく、各学群掲示板や学生控え室、大学院の研究科なども増やしていただけると、今までにない媒体となります。）

T-ACT を使いやすくするために・・・

③ T-ACT で使える場所の時間を増やして欲しい（特に夕方）学生が授業に行く時間しか使えないので、実質的な利用が難しい状況にあります。警備員室に鍵を借りられる範囲の教室等で T-ACT 用の部屋を用意して頂きたいです。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	留学生と日本人学生の情報誌づくり、第二弾（09013A）

T-ACT プランナー	須藤　優花（比較文化学類）	
活動内容	留学生と日本人学生の情報交換及び（新聞やブログの形としての）発信と、その活動を通しての相互理解	
活動期間	平成 21 年 8 月 30 日～ 11 月 26 日	
活動計画	平成 21 年 8 月 30 日	全体会議 メンバーを再構成し、ML を再度作り直す。また、この時に新聞の形式、役について決める
	9 月～ 10 月	現状から望ましいと思われる層（欧米圏の留学生、男子など）を中心とした人集めの活動。並行して記事づくりを進めていく。できれば新聞第一号を発行する。
	11 月初旬	読者からの反応を見つつ、調整、また新聞第二号発行予定。
備考欄	1 学期中のメンバーがおよそ 20 人、そのうち継続見込み 12 人	
T-ACT オーガナイザー	草刈　緑（比較文化学類）	
T-ACT パートナー	小野　正樹（人文社会科学研究科・留学生センター）	

活動報告

活動成果

全体的に 1 学期に比べて、より多くの人とのつながりを得ることができた。特に収穫だったのは、留学生と日本人学生との関係をよくしていこうと努力している他団体とコンタクトをとり、お互いに協力することができたことだと思う。

そして、なによりも「Team8」冬号の発行が、大きな成果として挙げることができるだろう。今回の二号目の発行はオーガナイザーの草刈緑が中心となって、筑波大学のチューター制度の実情について調査をした特集号が組まれたこともあり、第一号よりもずっと充実したものになった。

今後の課題

実際の留学生との交流は基本的に一学期に知り合った人たちとの間で深める、といった形となっており、まだまだ留学生の数が足りないように思う。

しかし、逆に留学生ばかりで日本人学生が不足している団体とも交流を深めつつあり、これからはいろいろな団体と協力しながらより良い情報誌を作りたいと思っている。

経験者からのメッセージ

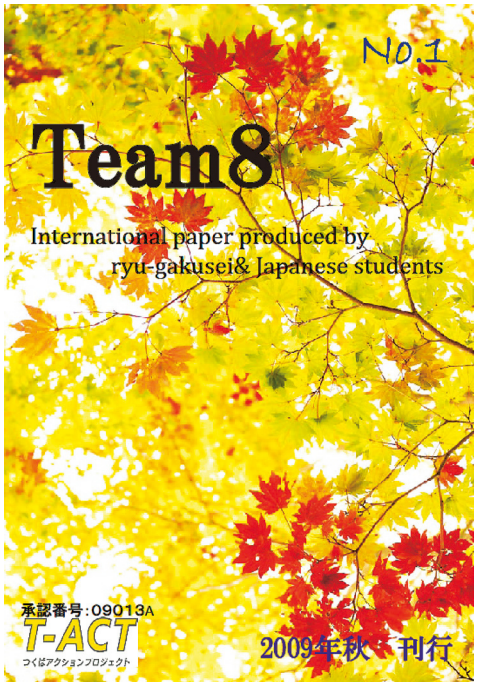
プランナーは、みんなのために、を一番に考えるリーダーであることが大事だと思います。自分の意思に賛同してがんばってくれる人たちに常に感謝の気持ちを忘れないこと。自分のためにたてた企画だとしても、それが企画として始動する以上、人のためであること。これが少なくとも私にとって一番難しいことでした。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

もともと、自分たちの夢を持っていて、積極的でアクティブで、しっかりした人たちばかりだったので、参加者というよりは怠け者であるプランナーが一番教えられることが多かった、というのが正直なところです。

T-ACT に関する感想

いつもわがままを聞いてくださってありがとうございます。



＜ Team8　秋号＞

＜ Team8　冬号＞

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	みんなで YOSAKOI ソーランを楽しもう〜♪ vol.1（09014A）

T-ACT プランナー	守屋　俊甫（人間総合科学研究科）	
活動内容		
筑波大学の学生団体は基本的に筑波大学生で組織され活動が行われている。大学内での学生同士の結び付きは生まれているが、しかし現状では、大学内外を越えた学生と他大学生・大学職員・地元住民との結び付きは希薄な状態である。そこで、本企画では学生が主体となりながら、大学職員や地元住民など垣根を越えて仲間を募り、YOSAKOI ソーランを通して“踊りを楽しむこと”や“年齢・職業が異なる様々な仲間たちとふれあうこと”を目的とする。そして、最終的には数回の練習の発表の場として、9 月 20 日・21 日に行われる「うつくしま YOSAKOI 祭り」への出場を目指し、祭りへ参加することの楽しさを感じてもらいたい。		
活動期間	平成 21 年 9 月 9 日〜 9 月 22 日	
活動計画	平成 21 年 9 月 9 日〜	学内募集掲示・告知開始
	9 月 9 日・ 11 日・13 日・ 16 日・18 日	＜練習＞ メンバーとの練習として 5 回設定
	9 月 20 日〜 21 日	＜本番＞
	9 月末日	活動報告書のまとめ
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	佐々木　啓太（医学類）	
T-ACT パートナー	矢澤　真人（人文社会科学研究科）、 寺山　由美（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

福島県の YOSAKOI ソーラン祭りに参加してきました。

今回は筑波大学　斬桐舞（YOSAKOI ソーランチーム）に加えて、茨城県で活動している他の YOSAKOI ソーランチームとの合同演舞という形で、祭りを楽しんできました。

祭りでの演舞が始めてのメンバーも多数いるなか、いくつもの舞台での演舞にて、お客様からの拍手をたくさんいただき、心に深く残る 2 日間を過ごすことができました。

では、参加したメンバーからの声を箇条書きにて報告します。

・自分たちの演舞を観てもらい拍手をもらえることが非常にうれしく、舞台に立つことが気持ち良かった。
・いままでお祭りで踊るなんて手の届かない存在だと思っていたけれど、まさかこの自分があんなスポットライトを浴びた大舞台で、南中ソーランを踊ることができたということに未だに信じられない気持ちでいっぱいです。
・誰もが主役になる！って感じの自己主張ができた！あのステージの笑顔、叫び声、熱さ、ぬくもり、におい、愛する人との共存その全てが、あのゾクゾクが、私たちを踊りに駆り立てた！
・初めて出会った人たちとも一緒の舞台で踊れるなんて不思議な空間だった。踊りには本当に人の垣根がないんだなって感じました。

以上参加メンバーの感想を一部抜粋。

感想にもあるとおり、お祭りを楽しむことに加えて、いままでふれあったことのない世代の人との交流や、他のチームとの交流もでき、ただ大学生活を過ごしているだけでは経験のできないものをたくさん吸収してきました。

踊りを介することで人と人の垣根が取り払われ､みんなが笑顔で交流できたことは､今回のプロジェクトの最大の成果といえるでしょう。

今後の課題

今後の課題としては、如何にプロジェクトの存在を周知させ、より多くのメンバーを巻き込むかという点にあると思う。

まだ、新規メンバーという点で参加する人はおらず、T-ACT を観たから参加したいですという人を生み出したい。

告知の仕方や、告知時期を見直す必要があると思う。

経験者からのメッセージ

とにかくやりたいことがあったら実践すべき！
まずは発信していくことを続けていき、少しづつでもいいから広めていく！
動かなければ何も始まらない。
今のままでいいと思ったらそれ以上には進まない。

現状維持は退化ですよ〜〜 !!

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

祭りを経験してから、さらに次の祭りに参加したいとか、もっといろんな踊りを覚えたいとか、YOSAKOI ソーランをより好きになってもらえた。

みんなで何かを作り出すこと、その体現したものが観ているお客様を喜ばせ笑顔にさせること、これらを体験できたことが新しい価値観を生み出せたと思う。

技術を追求し上手に踊ることではなく、自分たちが踊りを心から楽しむことが、結局一番お客様を楽しませることになるんだということを気づけたメンバーも多かったと感じる。

T-ACT に関する感想

お借りしたビデオカメラとデジタルカメラは非常に役に立ち、参加者たちのたくさんの笑顔を残すことができた。こういった物品を借用できることは T-ACT の強みであり、申請側にとってはとてもありがたい制度です。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	「わかる･伝わる」コミュニケーション～岸英光コーチによる実践トレーニング～（09020A）

T-ACT プランナー	霜越　安文（数理物質科学研究科）	
活動内容		
年間 400 件以上講演を行うコーチングの第一人者である、岸コーチにコミュニケーションにおける肝をワークショップとして開いてもらい、参加してくれる筑波大学関係者の方に、素晴らしい人生を歩んでもらい、素敵な社会創造のきっかけにしたい。 **【なぜ T-ACT を通すのか ?】** ・筑波大学の友人や先輩、後輩たちとともに、困難や課題に挑戦する体験をしたかった。 ・前例を創ることにより、次このような企画を行う際のモデルを創りたかった。 ・T-ACT を通すことで広く筑波大学の関係者に告知できると考えた。		
活動期間	平成 21 年 10 月 1 日～ 11 月 30 日	
活動計画	平成 21 年 10 月	活動開始 メンバーを集めて、話し合いを進めて計画を練る
	11 月	活動拠点を定めて、講座開催の準備 & 告知 （講座開催日時は交渉中）
	11 月末	メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	重原　美緒（教育学類）	
T-ACT パートナー	久保田　優（学生部就職課）	

活動報告

活動成果

【実施した活動内容】

・外部から講師を呼び、講演会を行った。
・週一回、一時間未満のミーティングを計 9 回行った。
（合計 9 時間のミーティング、事務作業 10 時間程度）

【目標達成度】

当初、目標を 50 人の参加者と設定。当日公式参加者は 99 名。
したがって、参加者を現す点では 198% の目標を達成した。

【得られた成果】

・目標を達成するにあたり、様々な協力者が現れた。
・ミーティング資料を残しました。見てください。
・ミーティングを行っていく過程で、弁護士さんとの相談をすることができた。
・もともと扱う内容がコーチングということでもあり、主催者スタッフが東大ビジコンで優勝した。
・チーム全員のやりたい事、出したい成果が明確になり、個々人で結果を出すことができた
（例：社会的超 VIP との会見、新事業の立案 & 実行体験）

今後の課題

【問題や困難】

・何よりも一歩踏み出すことが怖かった。
解決策⇒仲間同士でお互いを「やる」パートナーとして扱いあった。
・大変な実績のある人とのコミュニケーション
解決策⇒自分達が何を創りだしたいのか、明確にプレゼンした。
・T-ACT に踏み入れるのが怖かった
解決策⇒怖くてもいいから行ってみた。未だに怖い（笑）
・本当に実現できるのか、参加者が当日来てくれるか不安だった。
解決策⇒当日、初めの挨拶を行っても不安でした。

経験者からのメッセージ

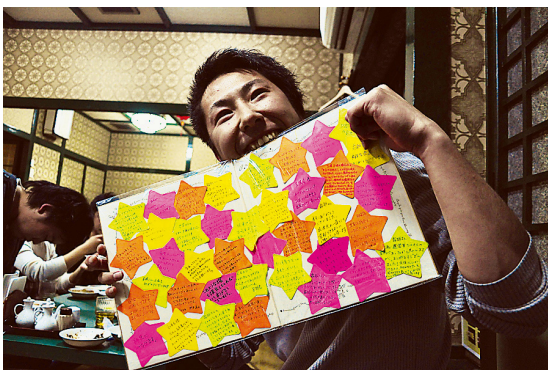
実際に企画を立案し、実行に移すことには、様々な感情が湧いてきます。
「不安、怖い、めんどくさい、やりたくない、なんでやってんだろう、帰りたい、ちくしょー、などなど」企画をするだけならば、誰でも楽しんで行えます。
そしてその企画をちゃんと実行するかしないか、雲泥の差がでてきます。
一歩踏み出してみてください。
何か変わるかもしれないし、変わらないかもしれない。人生そんなもんじゃないですか？
講師を含む 100 人の前で終わりの挨拶などをさせてもらいましたが、未だに人前で何かを言うことは怖いです。そもそも人と一緒に何かを創り上げること事態が怖いです。
講師の方も同じ事をおっしゃっていました。年間 600 回以上講演されている方なのに（笑）そんなもんです。怖くてもいい、やりたいな～と感じたら、不安な状態のまま一歩進んでみてください。きっと何か見えてくるかも？

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

変化してません。もともと持っている潜在能力を引き出しあう環境を創れたかも・・？
そしてこれから結果を出していくのかも？ただ、99 名のアンケートを見る限り、内容が不満だったから金を返せという話は出てきませんでした（笑）

T-ACT に関する感想

利益を出さないことがとても難しいことでした。利益を出した分を、T-ACT 基金に回すなどの仕組みがあってもいいんじゃないですか？そうすることで、より大きな企画を皆さんが実行できるようになると思います。意外と利益を出すことが簡単だと分かりました。



T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	新春！大・餅つき大会を開催しよう！（09022A）

T-ACT プランナー	岩田　拓馬（物理学類）

活動内容

筑波大学の国際化という目標を掲げていますが、このような日本の文化を紹介するような試みはあまり聞いたことがありません。国際化するには自国の文化を知ることは大切で、また、留学生の方々はわざわざ日本という国に来ているのですから、日本の伝統文化を知って体験してもらう事も大切なことです。

そこで、大・餅つき大会を開催し、皆で日本の伝統的な行事を楽しみながら、国際化を図ろうと企画立案しました。

餅つき大会はこのような国際化を図る点で、以下の利点を持っています。
1. 餅つきは日本独特の伝統行事である。
2. 実際に行っている日本人は意外に少ない。
3. みんなで目標（お餅）に向かって努力することで交流が生まれる。
4. 美味しい物を食べながらの話は弾む。
5. 堅苦しくなく、楽しめる。

などなど

このように国際化を進める上で、餅つき大会を開催することは最善の手であることがわかります。

活動期間	平成 21 年 11 月 1 日～平成 22 年 1 月 31 日	
活動計画	大・餅つき大会について 予定日時：1 月上旬 開催予定場所：松見池前 必要機材：臼、杵、蒸し器、テント、ブルーシート、紙皿、割り箸、バケツ、その他未定 衛生面・金銭面：未定（T-ACT コンサルタントの方と相談して決めていきたいです） タイムテーブル：未定 内容：全学に広報を行い、餅つきをして食べる会を催す。 その時に、参加費（200 円～ 400 円程度）を徴収したい。	
	平成 21 年 11 月	主にメンバー（オーガナイザー、パーティシパント両方）集めを行います。 メンバーが集まり次第、大会の打ち合わせをしてきます。必要機材の準備、衛生面での問題、金銭問題を T-ACT コンサルタントの方と相談し決めていきます。 また、衛生に関する法律について相談をしたいです。

活動計画	12 月	1 月上旬に餅つき大会を行う予定なので、12 月の早めにポスターを使った広報を行いたいです。 11 月同様メンバー内で打ち合わせをしていきます。
	1 月上旬	大・餅つき大会を行います。大会の詳細については上記を参考してください。
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	鹿志村　むつき（化学類） 大平　健司（知識情報・図書館学類） 牧野　美咲（化学類） 伊藤　一成（教育学類） 大伴　史緒（地球学類）	
T-ACT パートナー	関崎　博紀（人文社会科学研究科）	

活動報告

活動成果

留学生との国際交流を目指し、餅つき大会を行った（1/23）。

日本人学生も餅つき大会を行ったことない方がほとんどなので、そういう方に伝統文化を体験してもらえ、また留学生の方も TV の中でしか流れていなかった行為を実際に体験してもらい楽しめてもらえたようだ。また、餅つきを共通の話題として話易い場を作れたと思う。だが、水加減のミスや最初の説明不足もあり、あまりおいしいとは言えないお餅ができてしまったので、目標達成度は 80% くらいだ。

しかし、留学生との交流会という意味では成功し満足できた。

今後の課題

活動を始めるのが遅かった、ポスターを見てのメールは 1 か月ごろから増え始めたのでメンバー募集に 2 か月、参加者募集に 1 か月はかけた方がよかった。

調理を行なえる場所が筑波大学内に少ないので場所の確保が大きな問題となった。次回行うときは場所を大学外にも視野を広げた方が良い。

掲示板の利用に関して不透明な場所が多いのでなんとかしたい。

経験者からのメッセージ

広報について

・ポスターの効果は約 1 か月ころから次第に出てくるので長い目で見た方がいい。
・似た目的をもつサークルの方に頼ろう。
・T-ACT の募集のメールは知らない人にも送れるので迷惑にならない程度に使う。

運営について

・関係する人の連絡先は全て把握しておいた方がいい。
・学生生活支援室など活動に協力的な部局の方を通じて許可をもらうと話が通りやすい。
・会の最初の説明はしっかりとやる

金銭面について

・集金をする場合、全参加者を会のメンバーとして登録しないと許可がおりにくい。

餅つきについて

・もち米は炊飯器でも炊けるが水加減はかなり注意しないといけない、蒸す場合と違い炊飯器に入れた水は全て吸水してしまうので、事前によく吸水させるとべちゃべちゃになり、しないと上が固く炊けてしまう。1、2 合の餅米ならば 1 合につき 110ml の水を入れるだけで炊けるがそれ以上はこの方法では駄目。
・道具は桜民間園で貸出をおこなっている。児童館や保育所でも持っている場合があるので借りれなかった場合は尋ねてみるのもあり。

あとはがんばれ

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

最初は仲間内だけで話していたが、だんだんと他の人とも話すようになっていった。餅つきの話題はその場で皆が共有できる話題なので話しかけやすかったと思う。

T-ACT に関する感想

つくば市で活動の資料や主要施設の電話番号一覧を作っているので、そういう資料がもっと増えてほしい。

T-ACT つくばアクション プロジェクト

企画名	聞きたい！聞きたい！スポーツマネジメントの裏話！浦和レッズの裏話！（09023A）

T-ACT プランナー	染谷　悟（人間総合科学研究科）	
活動内容		
日本には多くのスポーツ人口がいる。部活で、サークルで、クラブで、遊びで多くの人がスポーツを「プレー」して楽しんでいる。一方でスタジアムやグラウンド、体育館に足を運び、スポーツを「見て」楽しむ人もいる。 しかし、ことスポーツを「創る」楽しみを味わっている人は少ないのではないだろうか？華やかなスポーツの舞台は「プレー」する人、「見る」人、そして「創る / サポートする」人の三者で成り立っているが、この創る人に対して我々は知らないことが多すぎる、と思っている。 今回のアクションプランでは、秋休みの期間を使って、そんなスポーツの舞台を「創る」ことに楽しさを見出し、「仕事」としている筑波大学の OB を訪ねに、J1 浦和レッズの本拠地：埼玉スタジアムへ向かう。「創る」人と出会うことで多くの学生に「創る」楽しみという新たな視点を得てもらい、それを日々の生活に活かして「問題発見解決型」の人材になってもらいたい。 また、今回の企画では人脈がなければ就職の選択肢に入れることができないスポーツマネジメントの現場に、一般学生でも触れられる機会を提供する。これにより、多様なバックグラウンドの学生がスポーツマネジメントに関わり、日本のスポーツ界を発展させるきっかけとしたい。		
活動期間	平成 21 年 11 月 4 日～平成 22 年 12 月 31 日	
活動計画	平成 21 年 11 月 4 日	T-ACT 会議「企画承認」
	11 月 5 日	電子掲示板告知
	11 月 6 日	ポスターの T-ACT 承認→各学群掲示板に貼りまわり
	11 月 9 日	T-ACT 講義での告知
	11 月 9 日～ 10 日	ポスター貼りまわり、ネット上告知 参加者募集（先着 11 名・できるだけマネジメント未経験者を優遇）
	11 月 20 日	参加者確定、インタビュー内容確定、当日スケジュール確定 事前ミーティングを一度実施
	11 月 27 日	浦和レッズ本社訪問、インタビュー（交流会）実施
	12 月末日	参加者のうち 1 名の感想文やインタビュー内容を写真つきで STUDENTS に掲載
備考欄	■ T-ACT フォーラムにご協力頂きたいこと →学内バスの手配（交通手段として）、テープレコーダーの貸与（インタビュー内容の記録）	
T-ACT オーガナイザー	福田　麦穂（生物学類）	
T-ACT パートナー	三輪　佳宏（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

◆当日のスケジュール

8：00	つくば駅改札集合
8：12	つくばエクスプレス乗車
9：18	浦和美園駅到着
9：45	本社入口到着
10：05	クラブ紹介（広報部次長 / 戸苅淳様）
10：35	クラブでの仕事について
11：15	学生から出された 16 の質問へ回答
11：45	質疑応答
12：05-14：10	ランチ（総務部部長 / 山道守彦様、広報部次長 / 戸苅淳様）

◆目標達成度

予定していたうち 1 名が体調不良により参加を見合わせたが他 8 名は全員参加することが出来た。当初目標として考えていたことは 8 名それぞれに『スポーツの舞台をつくる人』から刺激を受けてもらうことであった。そして実際に企画を終えた後の学生は皆満足感でいっぱいでたくさんの刺激や、新たな視点の獲得将来への展望を得られたとのことだった。そういった意味で今回の企画は目標を十分に達成できたと考えてよい。

また OB の職員 2 名から全員に名刺を頂けいつでも連絡をとれる状態になったこと
就職を希望する場合は履歴書を送付すれば受け付けて頂けることになった点は副産物と言ってよい。

今後の課題

今回のアクションは夏休み前からピッチ上での試合観戦＋クラブ職員との懇談を企画内容として考え、交渉していたがクラブの方針の関係もあり断念した。クラブ職員との懇談のみの企画として T-ACT 申請を行ったが訪問日が秋休みに決まったのが直前だったため広報スケジュール等がせわしくなってしまった。

今後同様の企画を立てる際は大学が休業期間中の平日に行うことを前もって決定し早め早めのスケジューリングと交渉が必要になると考えられる。浦和レッズに再度訪問希望が多く再実施する際は今回よりも楽に行えると思う。

経験者からのメッセージ

T-ACT では大学内での活動が主ですが大学外には多くの刺激があります。筑波大学は教育大学時代を含め多くの優秀な先輩方を輩出する歴史ある大学ですのでそういった先輩方を訪問することで大学の外の世界を在学中に見ることは貴重な経験となるに違いありません。ぜひ視野を広げ、一歩足を踏み出しそこで得た刺激や経験を大学に持ち帰り周りに波及して頂ければ、筑波大学や T-ACT はもっとよいものになると思います。

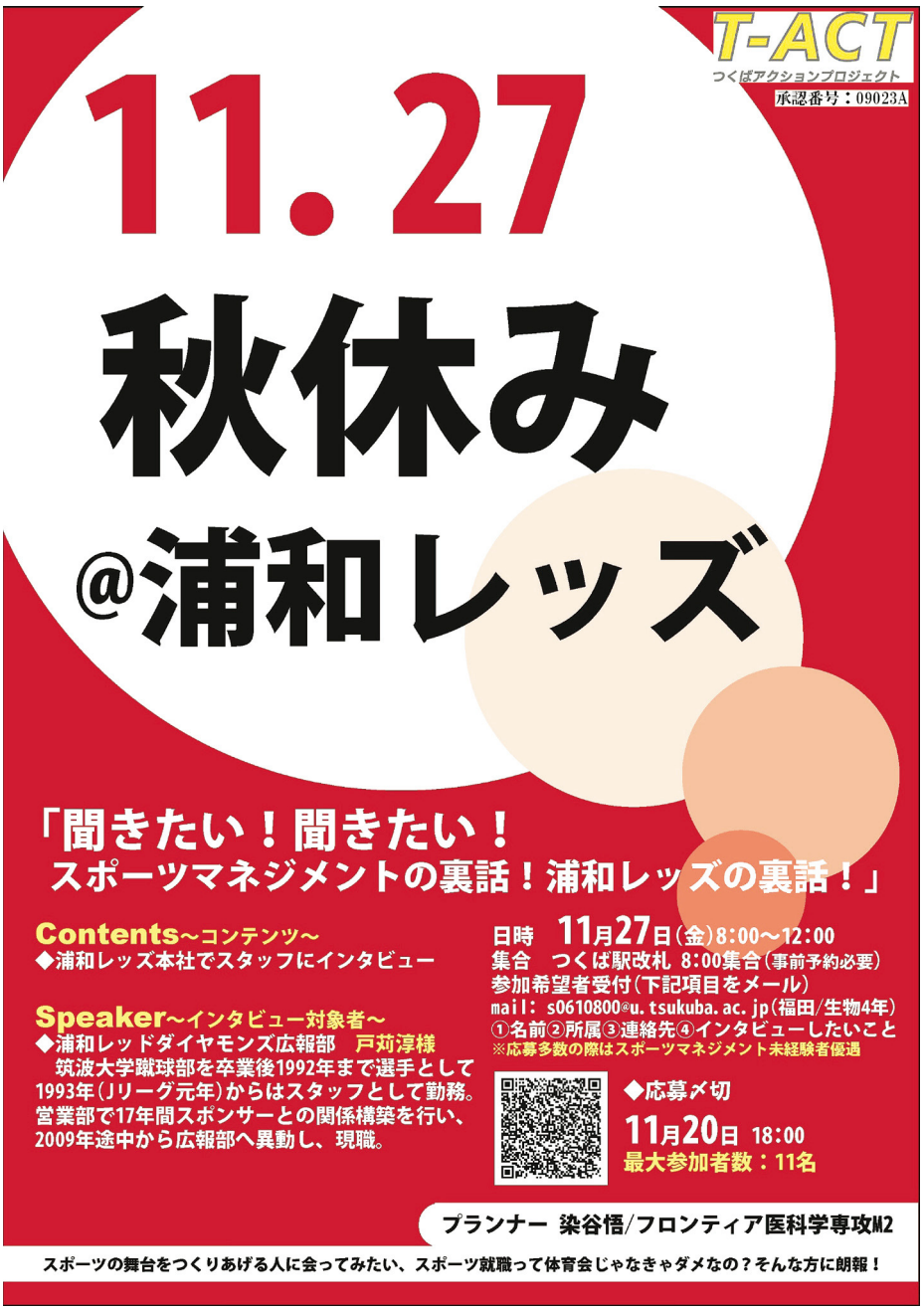
プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

確実に変化したと感じます。多くの参加者は『スポーツマネジメント』『スポーツビジネス』という得たいの知れないものに関して、より具体的なイメージを描けるようになった気がします。また、参加者目線（サポーター）の視点からつくる側（マネジメント）の視点を得たことで互いの立場や価値観を踏まえた参加者になれる気がします、との声もありました。一番大きな影響を受けたオーガナイザーは、将来の進路として考えるようになり、そこへ至るプロセスを明確に描き始めました。参加した人数は少なかったですが、1 人 1 人に大きな影響を与えたことは間違いない気がします。

T-ACT に関する感想

今回は T-ACT の樫村様、岡本様におんぶにだっこの状態でした。本当にありがとうございました。

欲をいえば、どこかの大スクリーン or 電子掲示板で今回の訪問で撮ったビデオを上映して頂けたら嬉しいです。より多くの方が今回の企画で刺激を受けて頂けたらこんなに嬉しいことはありません。



編集後記

T-ACT が本格稼働してあっという間に一年が経ちましたが、すでに 50 件を超す企画が承認され、学生・教職員が共に様々な企画を展開しています。T-ACT は「あなたのやってみたいを応援します」をキャッチフレーズに、学生・教職員による企画を応援する全学的な支援です。T-ACT では、非常に興味深い様子を観察することができます。大きな期待と不安を持って来室した学生が、はじめは質問も多く自分からは動けなかったにもかかわらず、次第に自分自身で問題を解決するようになり、また活動を通して様々な人たちと関わる中でコミュニケーション能力が向上する様子も見られます。T-ACT から離れて自分自身でコミュニティを形成して大学生活を豊かなものとする学生の姿も見られます。中には「用もなく来ました」、「遊びに来ました」という学生もいるなど、T-ACT の来室者はバラエティ豊富といえるでしょう。

これらはあくまでコンサルタントの主観的な印象ですので、学生の成長を示す客観的な事実があるとは言い切れません。しかし、T-ACT を利用する学生の表情が次第にいいものに変わっていく様、いろいろな事柄に興味関心を持ち、行動に移していく様を見れば、T-ACT が学生にとって何かしらの前向きなきっかけを提供しているのではないかと、つい思ってしまいます。学生一人一人の持つポテンシャルは計り知れません。自身のポテンシャルに気づかずにいる学生も多くいることでしょう。もし、「自分には何かしらの取り柄があるに違いない、でも自信もないし、活かす場もない」と思いこむ方がいるのであれば、自分の力を試してみる価値は十分にありますし、試す場が T-ACT にはあると信じています。

T-ACT は学生の皆さんの「スタートアップ」的な存在として、これからも利用する方のお手伝いをしていきます。利用可能な資源は最大限に有効活用していきましょう。そして将来的には T-ACT に依存することなく、やがては自分自身の手で足で、道を切り開くような素晴らしい人材が育っていくことを切に願っています。

つくばアクションプロジェクト運営委員会
専任コンサルタント　　樫村　正美

つくばアクションプロジェクト活動報告書

平成 22 年 3 月発行

筑波大学　T-ACT フォーラム
〒305-8577　つくば市天王台 1-1-1
TEL　029（853）2222